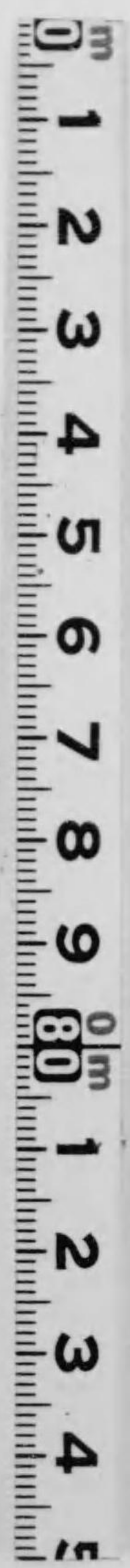


副業殖空地應用

287
396

實地養鷄法

白松鷄庵著



始

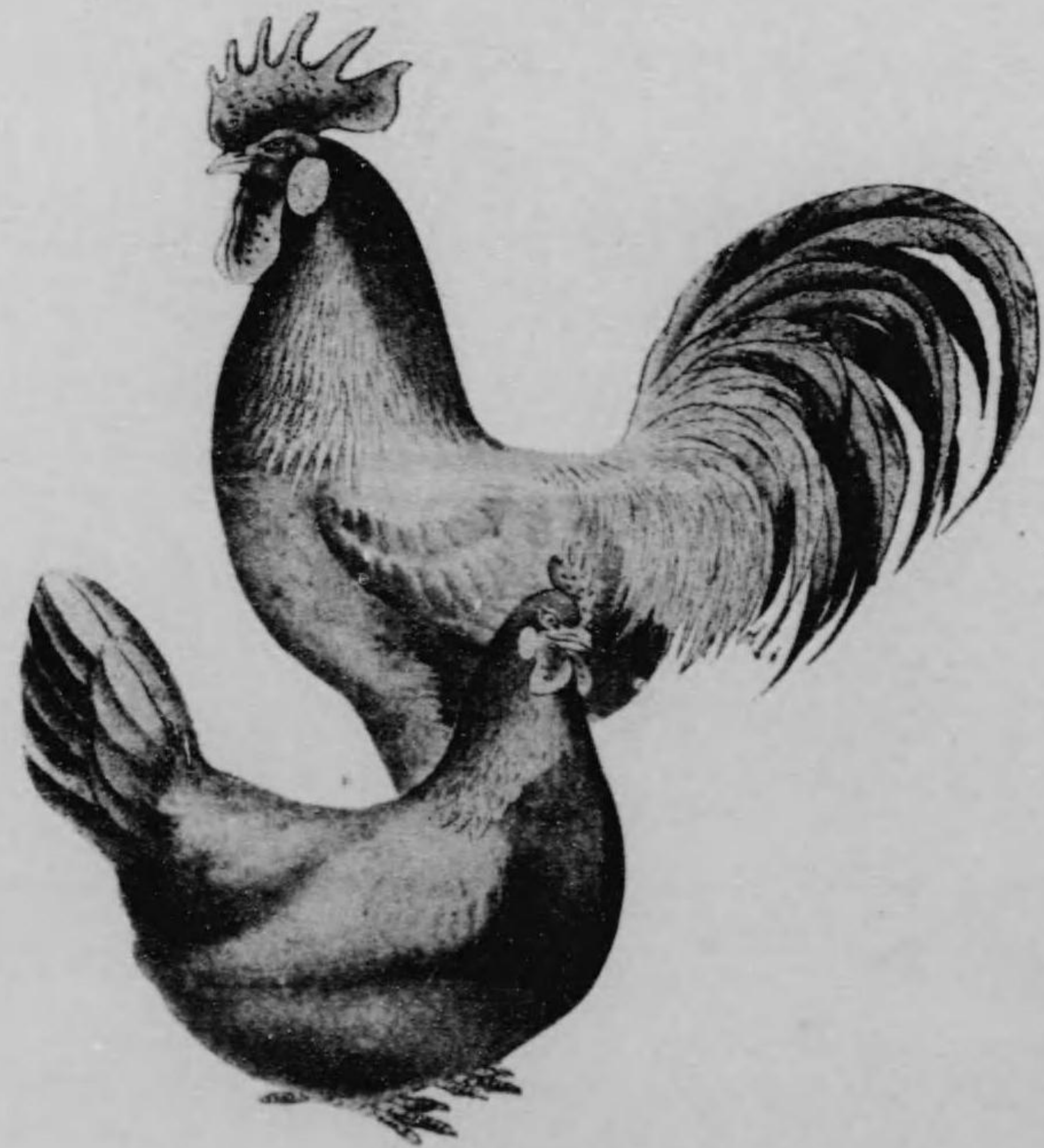


特210
167

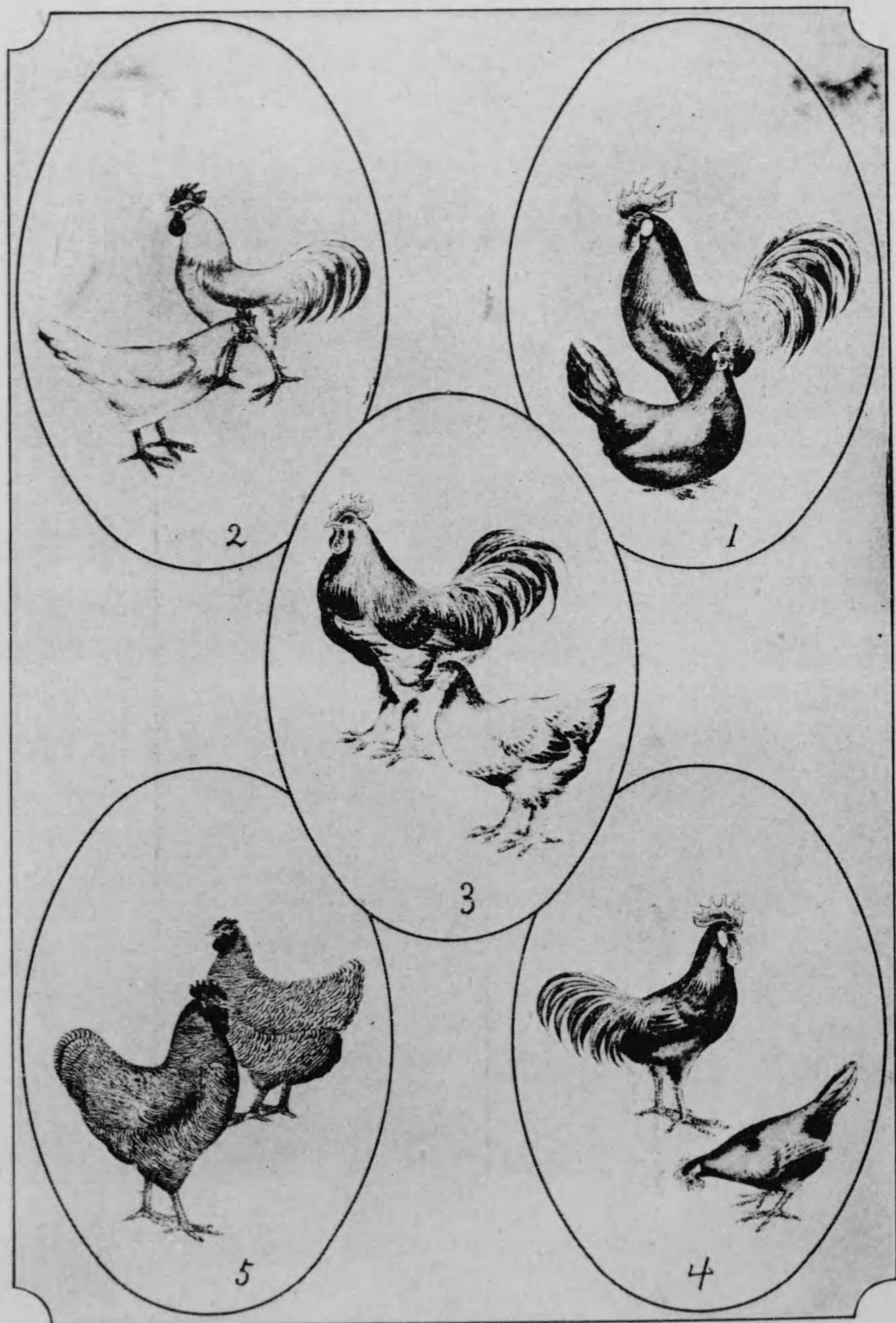
用 應 地 空 殖 利 業 副

法 鷄 養 地 實

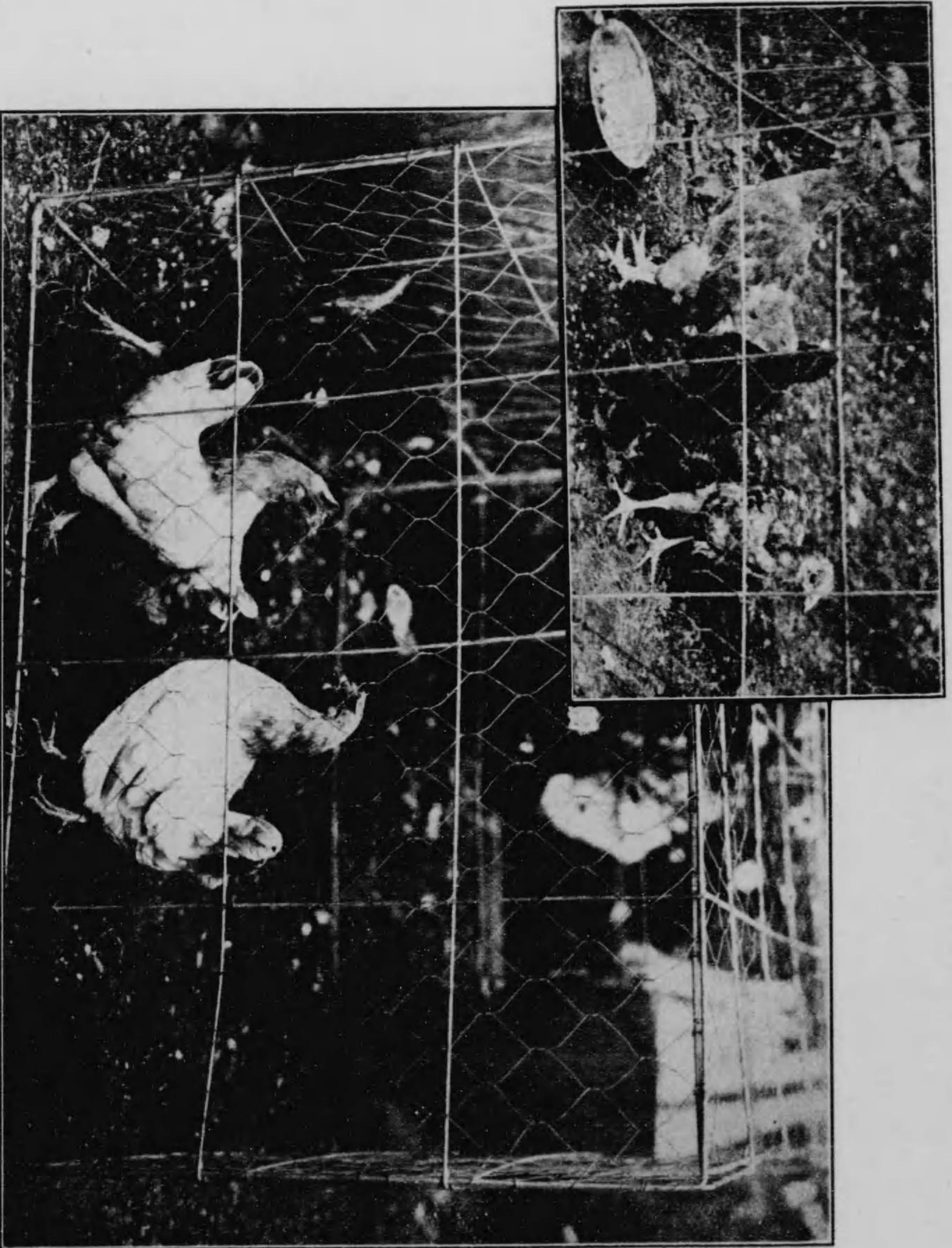
著 庵 鷄 松 白



大正
12. 1. 27
内交



(1) オーピント種 (2) 白色 レグホーン種 (3) アンダリユージャン種
 (4) 黒色 ミノルカ種 (5) 横班 プリマスロツク種



(圖之育發鳥雛圖上) 圖之鷄養地實

序 文

或日の事で有つたが知人雞庵子が訪問せられて、『廢物利用實地養雞』なる一原稿を示され、余に序を乞ふので有つた。夫れを承諾した私は、暇に任せて讀去つたが、想ふに養雞なるものは最も手軽な然かも安全の方法で行べきもので有のに、世間にはなかく左様な簡單な事ではないと心得て、無闇に養雞學の理論一途に趨つて實際を閑却にするから、遂に養雞なるものが馬鹿に困難となり、其結果は全然く失敗に終ると云ふ、案じ過ぎたがため却つて危険に踏み込むのが實に尠々でない。だから私は常に此缺點を遺憾に思つて居つた所、雞庵子の此書を讀で大いに賛成する所が多い。殊に其主眼とする空地を利用して廢物を飼料になすのは、私の非常に同意するのだが、更に養雞の利益を貯金して他日有用の資に供するとか、何年かの後に積み得た多額の貯蓄を以て興産の途を謀るとか云ふ主張は、頗る經世的の良策で、苟くも少しの努力と忍耐を解するものは、誰にも必らず實行される決して空論ではないと思ふ。

愛 鷄 道 人

依て本書の説明する如き趣旨の養鷄を行つたならば、世のあらゆる家庭で得る利益は、實に意外の多額で又頗る深い趣味を感じるから、彼の外國の養鷄法を其儘翻譯した様な書物や、學理にのみ傾いた迂遠の物とは、遙かに勝れた點が多い。誠に本書は多くの養鷄書中稀に見る意向を有する良著であるから、私は是を副業養鷄家、娛樂養鷄家及び貯金養鷄者に、其道案内として普ねくお勧めするが、著者の説述ごとく「飼料がないから」、「場所が無いから」等云ふ人は、宜しく此著を讀んで過去の誤解から蟬脱するがよ、又貯金を得るに苦しむ者等は走つて本書を見るがよい。私は恂う序文を物して目を庭園に放つと、「横斑ブリマスロツク」が悠々として居り、鷄舎の方より、「レグホーン」の優しい麗朗な鳴聲が聞えて來た。嗚呼鷄聲と云ふは誠に平和な然かも豊かなもので、鷄の無い家庭程淋しいものはないと熟々感じたのである。

緒 言

私は空地養鷄の主唱者で有る、私はほんの僅かな三羽から十羽位までの少数養鷄を空地利用で實行する様熱心に奨励する一人である。尙私は養鷄飼料を自家の廢物利用で間に合せ行く様になす事を研究する者である、更に私は養鷄の利益を貯金して巨額な金銭を得る様お勧めする者で有る。而して此空地養鷄は極く簡易なものだから、お庭の隅の二坪か垣根の傍の三坪か或は軒下の一坪半程も有れば、婦人でも子供でも老人でも、よし譬へ跛者でも隻腕者でも容易に出来る仕事である。然るに私が「養鷄をおやんなさい、ほんの僅かの空地養鷄をおやりなさい」とお勧めしても「いや食餌がないから」とは十人が十人必らず申されるお答であるが、是から見るとまだ世の中の方々は養鷄飼料に就て、非常に面倒な考へを持つて居られるらしい。だが五十羽百羽の多數な養鷄ではいざ知らず、只僅かの空地養鷄では左様な面倒なものではなく、其飼料の實に容易く得られるのである。即ち日々臺所から出る殘飯、肉屑、野菜切等の様

な廢物が有れば充分で、殊に地方の農家では、農産物の收穫から生ずる食品にならな
 い下等の雜穀類や糠類があればよく、又鶏の飼料として必要な動物質も自家の食品の
 魚類や肉類の殘物のみならず、附近の川、池、沼等から獲た雜魚、小海老の類があれ
 ば間に合ふから、所謂「廢物利用」で空地養鶏は全然實行されるではないか。空地養
 鶏！夫れは廢物利用で斯様に容易く實行から、實に面白いではないか。而して其生産
 物の鶏卵、鶏肉、鶏糞、羽毛及び少々の手数と面倒で誰にも得れる賣却攤の利益等は
 誠に大きなもので、是をかい摘んで申せば、彼の苦心經營田畑一段歩を耕作して得た
 純益と空地利用廢物飼料の十羽養鶏の純益と相當するから、又驚くではないか。だか
 ら其収益は日々の家計を補助するに足り、尙進んで貯金せんと欲する者には非常によ
 い財源を供給するので、廢物利用から貯金の目的を容易に達し得るとは、實に是れ萬全の
 良策で有ると思ふが、尙空地養鶏を行れば金銭以外の樂み、即ち毎日産立の極く新鮮
 しい鶏卵から味な卵料理が食られ、時々佳美い鶏肉調理に舌鼓を打つて晚餐の食卓
 に一團樂の愉快を買ふ、非常な娛樂なども得られるのだ。

副業利殖 實地養鶏法目次

空地應用	一、空地利用と養鶏.....	(一)
	(一) 養鶏は空地利用の最良法.....	(一)
	(二) 誰にも出来る空地養鶏.....	(四)
	(三) 空地利用の鶏舎と運動場.....	(六)
	二、廢物利用の空地養鶏.....	(三)
	(一) 養鶏の飼料は何か.....	(二)
	(二) 空地養鶏の飼料は廢物でよい.....	(一五)
	(三) 空地養鶏の飼料給與法.....	(〇)
	三、空地養鶏の諸注意.....	(二九)

目次

目次

- (一) 適種の撰擇……………(二九)
- (二) 空地養鶏に最も適當の種類……………(三三)
- (三) 多種類の弊害と雌雄の配合數……………(三八)

四、種卵の孵化法……………(四〇)

目次

- (一) 人工孵化と天然孵化……………(四〇)
- (二) 種卵の撰擇法と取扱法……………(四一)
- (三) 孵化の季節と巢鶏の撰擇……………(四四)
- (四) 巢箱及び孵化の場所……………(四七)
- (五) 抱卵の仕方と抱卵數……………(四八)
- (六) 抱卵中の注意……………(五一)

五、雛鶏の育成法……………(五四)

目次

- (一) 人工育成……………(五四)
- (二) 自然育成……………(五六)
- (三) 雛の食餌と其給與法……………(五九)
- (四) 雛の管理……………(六三)
- (五) 雛の病氣療法……………(六八)
- (六) 雛の良否……………(七一)
- (七) 雌雄の鑑別法……………(七一)
- (八) 雛の成長……………(七四)

六、成鶏の飼養法……………(七)

目次

- (一) 成鶏の管理……………(七)
- (二) 鶏の斷巢法と多産法……………(八一)
- (三) 鶏の更新法……………(八六)

目次

(四) 空地養鶏の種々な器具……………(九〇)

(五) 鶏の疾病と其治療法……………(九三)

(六) 害虫の驅除と惡癖の矯正法……………(九九)

七、空地養鶏生産物の處理法……………(一〇四)

(一) 生産物の處理を巧妙にせよ……………(一〇四)

(二) 鶏卵の販賣法……………(一〇六)

(三) 鶏糞の處理は如何するか……………(一〇九)

(四) 廢鶏の賣却……………(一一一)

(五) 雛の販賣……………(一一三)

(六) 養鶏帳簿……………(一一五)

八、貯金自在の空地養鶏……………(一二一)

目次

(一) 貯金の必要……………(一二一)

(二) 空地養鶏は貯金の好財源……………(一二七)

(三) 千圓の貯金は空地養鶏で愉快に出来る……………(一三三)

(四) 空地養鶏の羽数と種々な貯金額……………(一三六)

(五) 農村青年と空地養鶏利益の貯金……………(一四〇)

(六) 空地養鶏と婦人子供の貯金……………(一四三)

(七) 學資貯金と嫁入貯金の空地養鶏……………(一四五)

(八) 養鶏利益で面白い一種の貯金法……………(一四七)

副業利用 實地養鶏法目次(終)

副業利殖
空地應用
實地養鶏法

白松 鶏庵 著

一、空地利用と養鶏

(二) 養鶏は空地利用の最良法

空地を利用して養鶏をなせ

町家の裏庭や地方農家は宅地の中には何處かに必らず何程かの空地は有るもので、軒下の一坪とか庭先に二坪或は垣根の傍の三坪は即ち夫であるが、私は斯様な空地を只空地として其儘に捨置くのは、土地利用の上から見て實に不經濟の感に堪へず常に思ふて居るので有る。だから是を何か有益な事に利用して収益を見とか、趣味有る事に供して樂むとかするを平素希望して止まないが、其利用法を考

案して見たら種々なものがあらう。例へば花壇を設計して四季の草花を愛するも、果樹を栽培して累々たる美果の豊味を味ふも、或は蔬菜類を栽培して食膳の友となすも亦適當の良法であるが、私は斯様な空地を利用して實利と趣味とに富んだ、ほんの僅少な三羽から十羽位までの養鶏を諸君にお勧めするのである。然らば何故に空地利用法としては、此養鶏が最もよいかと云に、夫を實行は毎日何程かの採卵が出来て極く新鮮い鶏卵が佳美く食られ、時々非常に美味な鶏肉料理に一家の者等が舌鼓を打て、晚餐の食卓に團欒の愉快を買ふ事も出来る。元來鶏は人に親み深い誠に可愛らしいものだから、夫を飼ふと種々な趣味が得れて、彼の麗らかな鳴聲や、無邪氣な動作や或は極く可憐な雛の成育も樂まれると云實に深い趣味を持つので有る。

實利に富だ空地養鶏

又空地養鶏は趣味ばかりでなく實利に富だものだから、空地利用の最良法としてお勧めするが、其生産物の鶏卵は相當

の價格を持つので、今ほんの僅かな空地を見付て五羽の鶏を飼ば、一雌が一箇年に約百八拾顆の産卵をなすから、四雌では七百二拾顆の鶏卵が得られ、一顆平均二錢と見ても拾四圓四拾錢の利益があり、鶏糞も五羽では價格にして毎年二圓五六拾錢は採れるから、總計では少くも拾六七圓の收入が有る。尙手敏く立廻つて種卵を賣るとか雛を孵化して販賣すれば必らず全部で貳拾四五圓の利得は見られるから、誠に實利に富んだもので、近來やかましく云はれる家庭副業としても養鶏は充分の價値を有つて居るので。故に農家等では食鹽や醬油や石油の様な日用品を購買するの金錢は容易に得られるが、又小學校生徒の紙や鉛筆を求めると學費も小使錢も、或は主人の煙草代位は取れるから、家事經濟の補助には儘になるのである。而して是等の利益を若し其儘貯金したら、幾年かの後には頗る大金となつて、何等かの用途に充當る事の出来るは何んの疑問も要せぬのであるが、實に養鶏は實利と趣味とを斯様に兼たもので、私が

空地利用の最良法として諸君に其實行を切望する所以で有る。

(二) 誰にも出来る空地養鶏

僅かの土地と少許の飼料

極く僅少な土地が有れば我空地養鶏は容易に出来るが、今何程の土地を要するかに就て調査て見様。勿論此飼養地の面積は鶏の種類と羽数とに依つて廣狹を要するが、先づ普通には五羽ならば一坪半か二坪、七羽ならば二坪か二坪半、十羽ならば二坪半或は三坪位の極僅かでありから、農家には云ふまでもなく町家でも此位の空地は軒下か裏庭の何處かに有るので、我空地養鶏實行に就ては土地と云ふものゝ心配は少しもないが、若し五羽でも飼養が出来ぬ方は一雄二雌即ち三羽でもよいから、僅々一坪許りの空地を何處かに見出して實行なされるがよい、實に空地養鶏は恁んな僅かな地積があればよいので、何處でも誰にも容易く出来る。

次は養鶏飼料だが、是も亦容易に得られるもので農家ならば自家收穫の残滓、町家ならば臺所の残物の残飯や野菜切、肉屑等があれば充分飼へるから、何の心配もなくよいが、是は後章に詳細記述として茲には省略き、只一言飼料の容易に得られることをお話いたしましたのである。兎に角空地養鶏は、僅かの土地と少許の飼料で愉快に出来るものではないか。

空地養鶏は僅かなる手数と少資本金

百羽五百羽と云ふ様な多数の養鶏では日々の管理になかく、多くの手数を要するが、我が空地養鶏では左様な面倒は少しもなく、只朝夕の出入や給餌に一寸の手数を煩らはずと、晝間食事後の休憩時に僅かの食餌や飲水の取換をなす位で宜から、堂々たる男子一人が掛らなくも、老人か婦人、子供等の片手間にさへ容易に出来るので、誠に其手数と云ふものは僅少であるのだ。而して斯様に少数の養鶏では、極少資本があれば實行されるので、即ち養鶏器具と

しても食器と飲水器をはじめ、雛の飼育に必要な雛箱位があればよい、是等は敢て金銭を投じて購求なくとも有合せの材料で自作すれば宜から是といふ費用は要せぬが、鶏を安眠させる鶏舎も特に獨立した一棟を築る必要はなくて、納屋か母家の一部を利用してよいと思ふ。だから空地養鶏は誠に手数の要らぬ、少資本の手軽な誰にも容易に實行されるものではないか。

(三) 空地利用の鶏舎と運動場

鶏舎の位置

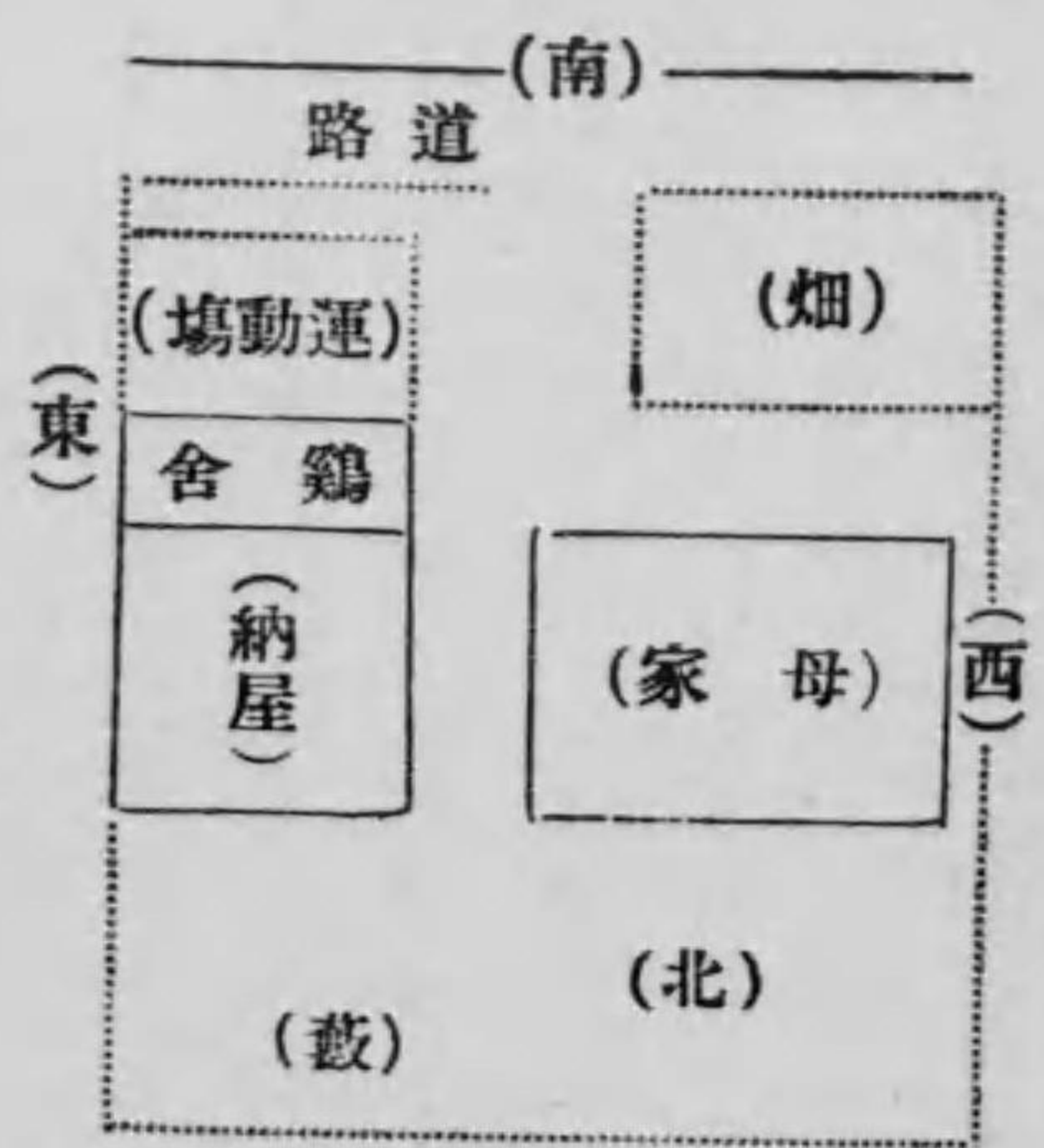
鶏舎は鶏が安眠や産卵をなし或は孵化、育雛をなす最も重要な箇處だから、鶏の衛生と飼養者の便利とに適當する様に建てるのだが我が空地養鶏に於ては、極少數の鶏を飼ふので特に鶏舎は建てるも、前申した様に母家か納屋の一部に位置を占めて設けるがよい。だから位置も理論道理に定める事は出来ないが、今位置選定上必要な注意事項

をお話すると、

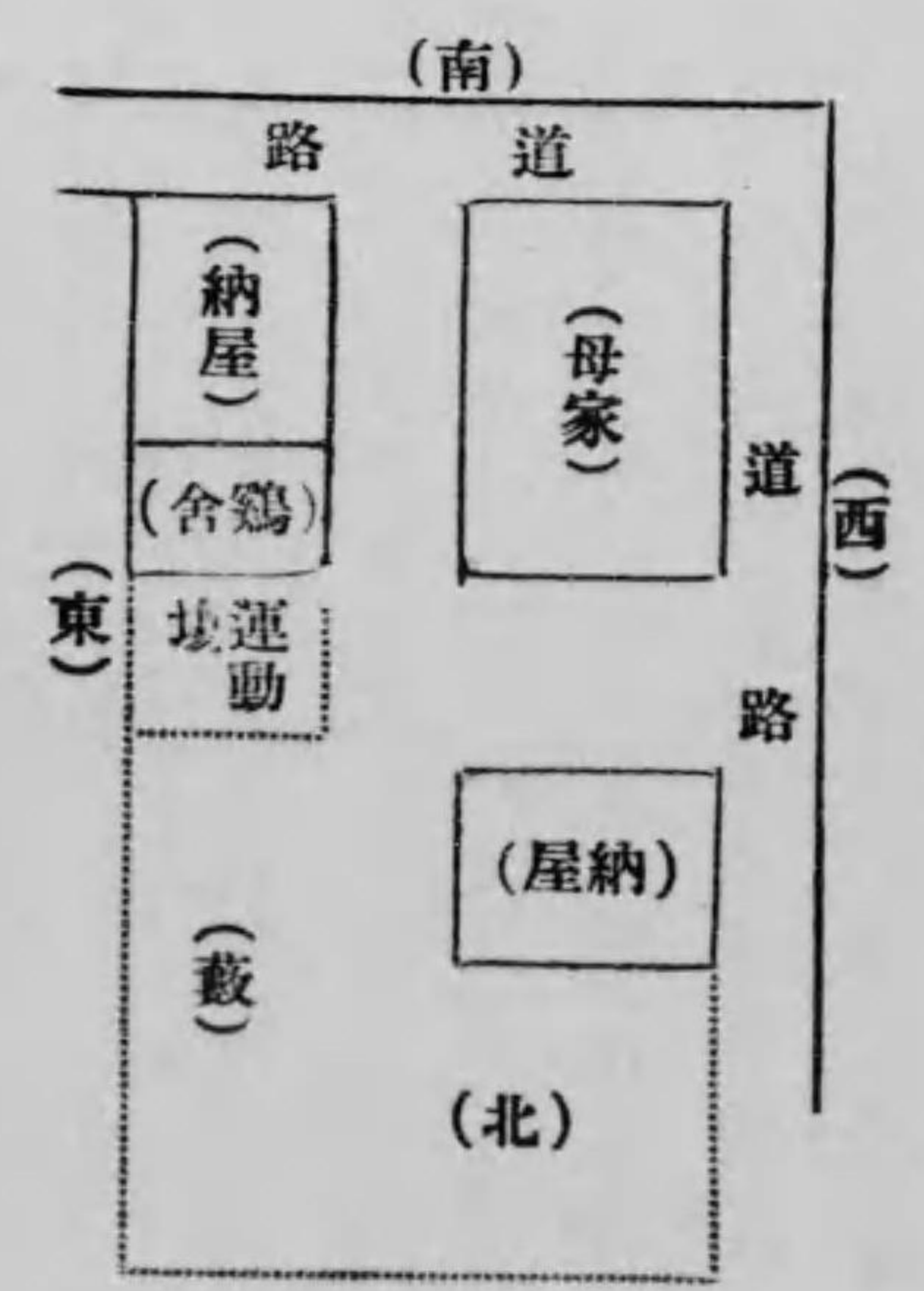
- (1) 常に乾燥した雨後と雖も直ぐに排水の出来る、然も温暖な箇處なる事。
- (2) 鶏舎の方向は正南を第一として東南之につぐ、西向、北向は宜からざる事。

- (3) 北方に建物又は樹林等が有つて、冬季の寒風を遮断得ること。
- (4) 猫、鼯、其他害敵の襲來し易からざる箇處なる事。

であるが、斯様に理想の場所は空地養鶏では容易に得られませんから、可成く是に近寄つた土地を選び、或は人工を以て排水するとか、樹木を植付けて風を遮るとかして、理想に接近するのが宜しいのである。而して私或農家で空地養鶏を實行して居るのを見たが、左圖の農家の様に納屋の南方に空地が幸ひ有る場合は、鶏舎、運動場を設けるのに其位置が好都合で、選定の條件に該當が、下圖の如く北向なのは大いに其理論上か



八

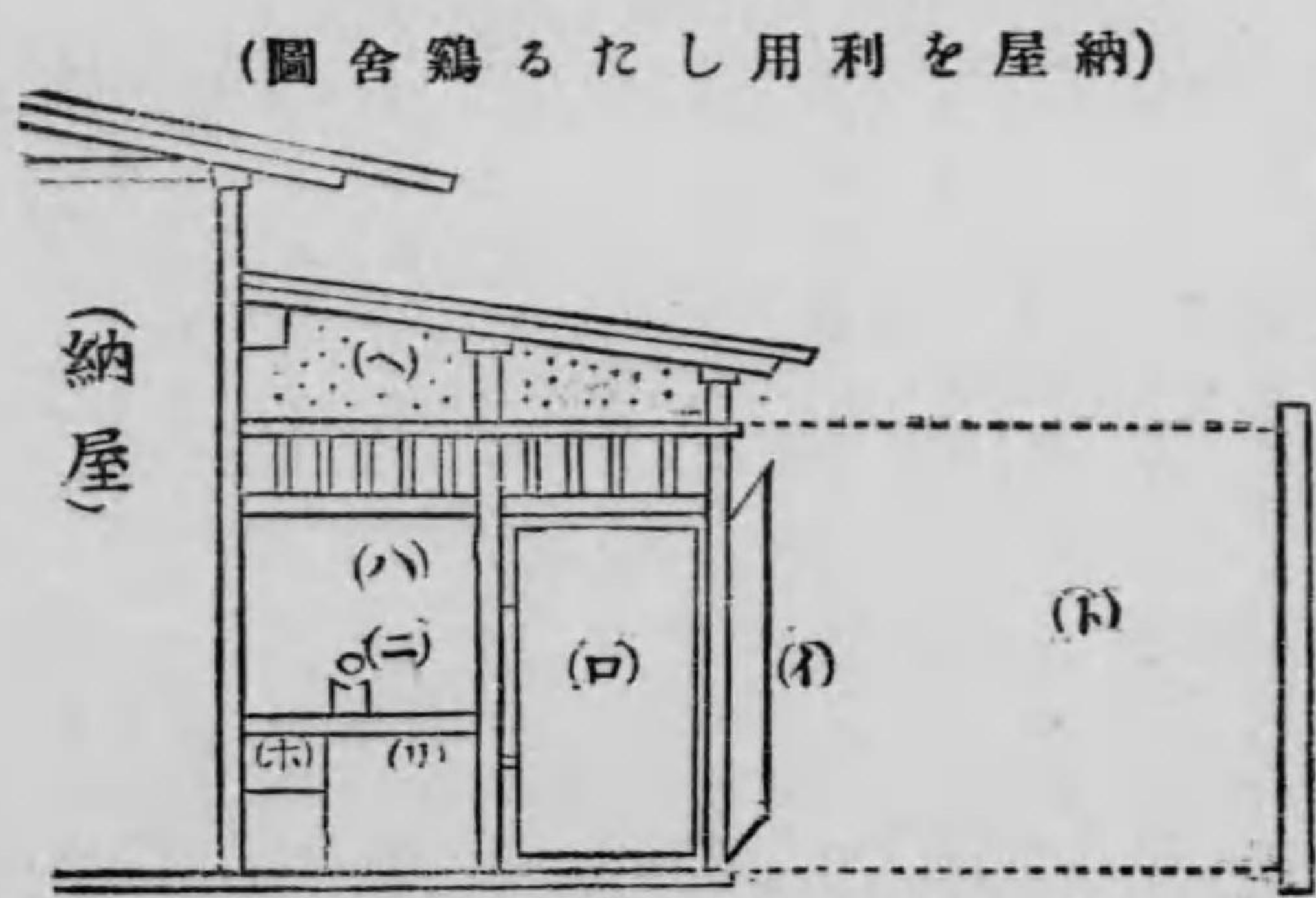


ら感心せない。然し此農家では他に位置を定める事が出来ぬので、斯様な箇處へ設けたが、其成績は實際中位を得つゝあつたのである。故に我々空地養鶏では鶏舎の位置を定めるのに選定の條件通りにはかりは行かないから家屋の方向家敷の有様によつて適當の空地に定めるのがよいと思ふ。

鶏舎の構造方

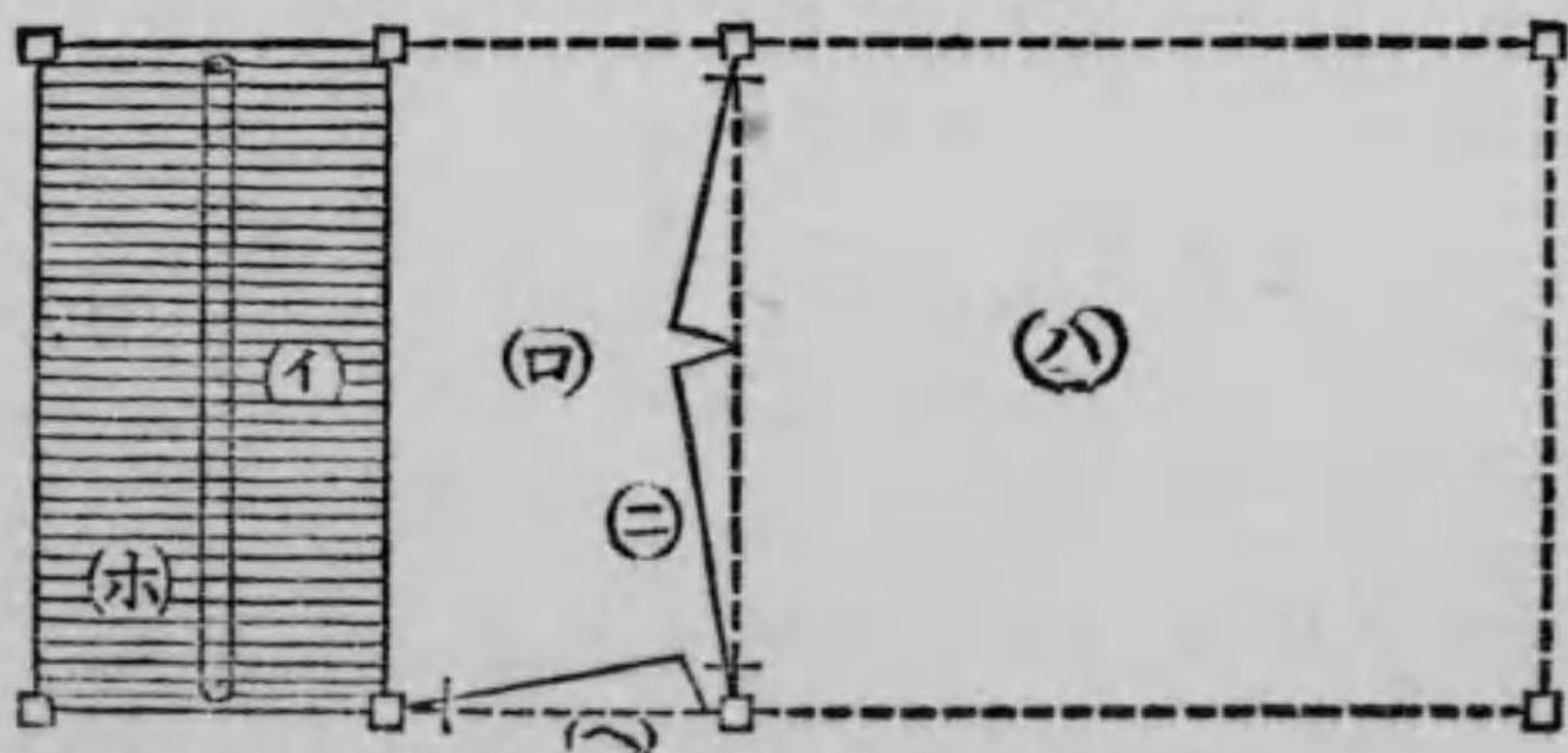
其構造法を説明するに當り鶏舎の面積は何程位あればよいかと云ふに、是は其鶏體の大小と羽數とに依つて加減するのは勿論で、五羽から七羽までは半坪、夫より十羽までは半坪餘あれば充分だから、一坪半の空地を見付た時は其半坪を鶏舎にして五羽から七羽位の養鶏をなし、他は運動場になすのがよい。夫で十羽養鶏の鶏舎につきお話するならば、間口一間半奥行一間位の廣さで是を厩室と雨雪運動場とに區別つのでありますが、厩室は地上から一尺二寸程離れた處に幅一尺五寸程の糞受板を置き、夫より一尺許上方に隔て、留木を糞受板に沿て設け板の下方には産卵箱を置くので有る。而して鶏舎の外部は一方運動場に面した處と側面の一方に出入口を開けて戸を設け、他の箇處は皆板張となして舎の上部には引窓を造り、夏季は開き冬季は閉て寒暑の調節に備へ、専ら鶏の衛生に適する仕組となすので有るが、雨雪運動場は砂礫を以て堅固い叩地となし、鶏の掘起しが出来ぬ様になすので有る。

(甲) 全側面圖



(リ)(チ)(ト)(ヘ)(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ)
 糞窓運壁産止時側鶏
 除動場卵箱木室戸舍入
 板場箱木室戸

(乙) 平面圖



(ハ)(ホ)(ニ)(ハ)(ロ)(イ)
 側止正運雨時
 面木正面動雲運動
 戸木月場場室

(圖舍鶏るたし用利を屋納)

運動場の設け方

運動場は鶏舎の入口に續いて設けるが、よく其周圍には竹、葦等何にても鶏の逃出や害敵の侵入を防ぐ程度で柵を廻らすのだが、堅牢で永続がし且つ體裁の最もよいのは、鶏舎用金網を使用するので有ると思ふ。而して兼用種は高飛をせぬから柵の高さは四五尺とし卵用種は其上を掩ふて飛出しを防ぐのだが、又鶏は夏季の強烈日光の直射を非常に厭ふから、運動場の上部に葦簀の様な日蔽をなすとか、何か樹木を植付るがよくて、夏季茂り冬季は凋む落葉樹の類は最も適當だが、葡萄棚を設けるのも亦妙で、果樹や花木の類即ち梅や桃を植込むも大いによいと思ふのだ。

運動場の面積

是は鶏の健康や産卵に大影響を及ぼすから其面積が鶏の羽敷に對して狭過ると、利益を目的とする副業的養鶏には最も不適當であると思ふ。だから鶏の性質を考へて卵用種の様な広い場所を好む者には、面積を可成多く取り、兼用種の如き比較的運動せぬ種類には

空地利用と養鶏

狹隘でも差支へないが、先づ「レグホーン種」、「ミノルカ種」は一坪に三四羽、「名古屋コーチン種」、「横斑ブリマスロック種」は五六羽が宜しいのである。

二、廢物利用の空地養鶏

(一) 養鶏の飼料は何か

飼料の種類

私は空地養鶏の飼料を自家の廢物で間に合せる事をお話しするに先立ち、鶏の飼料には如何な種類があるかを説明する必要がある。さて鶏の飼料と一口に申せば簡単な様であるが、是にはなかく種々のものが有つて、穀物、野菜、昆虫類、貝類、魚類、鳥獸肉類、骨類をはじめ、雑草、木實、草實等から、小石、瀬戸片、木炭、胡椒、唐芥子と云ふ様な不思議のものに至るまで、其範圍は極く廣いが、私は

是等を「普通飼料」「特別飼料」の二大別としてお話し致さうと思ふ。

普通飼料

是は普通總ての鶏が必要とする飼料で穀實、穀物加工副産物、野菜等の「植物質」と魚類、鳥獸肉類、骨類、昆虫類等の「動物質」とを含むが、其大要を次に説明しやう。

(1) 植物質飼料 は基本飼料とも申すべきもので、鶏を飼ふには是非なくてはならぬ。私共の御飯の様なものだが、之には左の如きものがある。

(イ) 穀實には玄米、小麦、大麦、燕麥、王蜀黍、糶、粟、稗、蕎麥、小豆、大豆等がある。

(ロ) 加工副産品には米糠、麥糠、糠、栗糠、挽割、小米、油粕、餵粕、豆腐粕其他農産物製造の殘滓等がある。

(ハ) 綠餌とは青菜類其他の蔬菜類及び軟草類を云ふのである。

(ニ) 動物質飼料 は副飼料とも云ふべきもので、鶏の健康を保持し産卵

を増進するのに極く必要な缺くべからざるものであるが、是は私共のお菜に相當するもので有る。

(イ)肉類には魚肉、貝肉、鳥獸肉、乾魚、小海老、鱈、鰯等がある。

(ロ)骨類には魚骨、鳥獸骨、骨粉等がある。

(ハ)昆虫類は地虫類の蚯蚓等をはじめ其他の虫類、蝗虫「バッタ」及び蠶蛹等である。

特別飼料

是は小石、硝子片、瀬戸物片等であるが、何故鶏は斯様な不思議のものを要するのかと申すに、御承知の如く鶏には口腔に歯を持たないから、是等の物を喰て胃中の食餌と磨合せ、齒の作用をさせて其消化を助ける様になすがためである。又特別飼料としては鶏の血液を清潔になすと共に胃腸の掃除に効のある、「木炭」「消炭」の必要もあるが梅雨期や盛夏、嚴冬の様に氣候の凌ぎ悪い時には、「胡椒」「唐芥子」を給與のである。更に貝殻類の様な石灰分は卵殻の生成に極く必要なもので

是が不足すると、「軟殻卵」と申す卵殻の甚だ柔軟なのを産から注意すべき事だが。是等特別飼料は柵飼の鳥に最も能く給與べき、空地養鶏家の注意飼料の一つであるのだ。

(二) 空地養鶏の飼料は廢物でよい

廢物利用の意義

空地養鶏をなすにつき其飼料として、「廢物」を利用すると云ふは如何な事か、私は是に就て少く記述する必要がある。即ち廢物とは日々臺所から出る種々な殘物や、農産物收穫から生ずる食品には適せぬ雜穀類は勿論のこと、精米所や製粉場から出る糠類及び其他工場よりの粕類や、製糸場から出る蠶蛹、或は魚屋の不用にする魚屑、肉屋の肉屑等であるが、是から見ると地方農家では其廢物たるものは主に穀類であるから、夫を多く利用すると全然の廢物利用で養鶏が出来るので、敢て資本を投じて他から飼料を買込む必要は少ない。然し町家で

は斯様な事は出来ないから、飼養数を僅にして臺所の廢物で間に合はせるか、或は少資本を投じて廢物を極安價に買込はかはないと思ふ、夫で農家にては動物質飼料を得るには是を川や池等の魚類から仰ぐのだが、町家では肉屋、魚屋から廢物を得る様にするので、要するに廢物利用は

(1) 全然自家廢物利用になつて、少も資本を投せぬ方法即ち地方農家の如きもの。

(2) 可成く廢物を利用して、必要に迫つたものばかりは極少資本で買入れるもの、即ち町家にてなす方法。

となるが、私は然ば如何な廢物があるかに就て、次の章に説明を試み様と思ふ。

空地養鶏の飼料となるべき廢物

養鶏飼料として此廢物を利用すると云ふことは前申した様に、飼養者の住地や家庭の事情等によつて異なるが、今私は是を二三に區別してお話するのである。

(1) 農地の飼養者。主として其飼料を種々な雜穀類の廢物から仰ぐので、即ち農産物收穫の際に得られる荒麥、枇、落麥、蕎麥、粟、稗等の種々な雜穀類や、玄米、麥等を搗た時に生ずる小米、米糠、麥糠等を準備するのだが、十羽位を飼養には充分あるので誠に便利である又動物質に屬するものは是を廢物と云ふは一寸おかしな様ではあるが附近の川や沼、池などから鱈、鮎の類を捕獲て燒物とするか、日光に充分干して乾物として貯へ必要に応じて日々給與すればよい、蝗虫、田螺、小海老も亦最も得やすくて有効なものであるが、時々食用に充てる魚の骨や臟腑の類を與へる様になさい。

(2) 市街地の養鶏家。空地養鶏では其羽数が僅少であるから、主に臺所の殘物に其飼料を仰ぎ、お釜や御飯櫃の洗流し、殘飯、料理から生ずる魚屑、肉片、野菜切等を用ふるのだが、必要に応じて豆腐粕、米糠、麥糠等の少量と附近の魚屋、肉屋から廢物を極安價に求めるのである。

(3) 工業地の人々は諸種の會社即ち製糸工場の附近や製粉工場の間近では、蠶蛹や糠類、粕類が得られるから、其中養鶏飼料となるべき廢物を求めて、夫を利用するも亦良策だと思ふ。

(4) 漁業地の飼養者 海岸地方で漁業の盛んな所では穀類、糠類の外に他地方で手に入れ難い、鰯、鯉、其他の魚類が容易に求められるから夫等の骨や臟腑を適度に給與するがよい。

要するに空地養鶏の飼料となるべき廢物は、其地方の諸處から産する物を利用するので、鰯を買つたら其頭を與へるもよし、鰯を求めたら其臟腑を給するもよい。落米でも掃寄でも、糠でも粕でもあらゆる鶏の食する物は是を廢物として給與せよと云ふのが私の主張だから、此の方法にさへ據つて行けば、費用要らずの極めて手軽な利益の多い、養鶏が出来るので、昔の様な古い頭腦はやめて新智識の養鶏を行るのが宜と思ふ。

何程の廢物を空地養鶏では要するか

廢物利用と云ふことは既に畧々

分明了が、何程の廢物を要するかは空地養鶏家の知るべき重要なことだから、夫に就ての説明をなさう。而して其食餌量は鶏の種類と飼養羽數に依つて多少があるので、一樣には申されぬのだが、私の實驗や友人等の經驗に就てお話しすると、五羽一日の分量は柵飼として、

(1) 殘物類 (殘飯、洗流等)

茶碗三杯。

(2) 麥糠類

三合。

(3) 糞類 (雜穀類)

二合。

(4) 魚屑類

茶碗約一杯。

(5) 青菜刻

茶碗二杯。

位であるが、斯様な食餌は何處の家でも容易に得られる。又或人の十羽に對する一箇年の食餌量を調べたのに依ると、

(1) 麥糠

一石二斗一升。

(2) 米糠

八斗七升二合。

(3) 粗米 七石三斗。
 (4) 荒麥 三斗五升七合。
 (5) 雜穀 (蕎麥、粟、稗等) 四斗二升一合。

と外に魚屑、肉屑等から青菜の若干が要つたと云ふことで、此人は麥糠の外は皆自家廢物で過したが、其麥糠の代金は一升平均一錢二厘であつたさうだ。兎に角空地養鶏で利用する廢物は餘り多量なものではないから、家庭の事情即ち廢物の生ずる程度を考へて、飼養の羽數を定めたらば、極めて愉快に行るのである。

(三) 空地養鶏の飼料給與法

飼料の調合 既に説述た養鶏飼料となるべき種々の廢物は、如何して是を給與たらよいか、夫は空地養鶏家の大いに心得べき事だから、私には其給與法について大畧を次にお話ししやう。さて普通飼料の穀類は其

儘給與ても宜いが、魚類、鳥獸肉の類は是を生物の儘で與へるのは宜くないから、必ず一度ざつと煮沸て與らねばならない。又動物の骨は鶏に極く必要のものだが、是はよく破砕して與へるので、糠類や粕類は夫れを單獨で給するよりも何か他の飼料と混和して給與するのが誠によいのであるから、飼料は總て各種の材料を調合する必要を感ずるのである。だから養鶏飼料は種々の廢物を調合して、「練餌」と云ふのを製造して與へると、諸種の材料を含むので鶏には美味感せられるから、大層喜んで喰るが、此練餌は却て安價にてすむために、飼料を買込む人にとつても大いに好都合の方法であるのだ。

練餌の調製

練餌を製するには米糠、麥糠、穀、粕類等を魚屑か鳥獸肉の煮汁で掻き混ぜ、夫れに青菜の様な野菜類の刻切だのを入れるのだが此時注意するのは其煮汁が多過ぎて、「ビタ〜」にならぬ事で、必ず練餌が、「バラリ」となる程度になすのである。さて廢物利用の養鶏では

如何して練餌を製造かと云ふに夫れは實に簡單なもので、毎日臺所から得た残飯と野菜切と少量の米糠か或は麥糠を混和して、是を料理から出た魚屑や肉屑の煮汁で掻合すので有るが、斯様な練餌は日々何處の家庭でも得られるから、私の申す七羽や十羽の空地養鶏には誠に適應たものであると思ふ。又練餌と云つても極く手軽なのは麥糠か米糠に川や池から獲た魚屑と青菜との三種を水で掻混たもので、如何に多忙な農家でも如何な不便の山間僻地でも實行されるから、近頃此法を採用ものが多く夫れでも相當の成績を挙げつゝ愉快な養鶏が出来て居るのである。

粒餌の給與法

粒餌と云ふのは主に農家の廢物で、夫れは玄米、小米、荒麥、枇、粟、稗、玉蜀黍、蕎麥等の雜穀類を總稱のて有るが、斯様なのは練餌の如く他の材料と共に混合して與らなくとも、單獨で地上に撒布して給すれば宜から、多くの手數や面倒は要せず至極手軽であるばかりか飼料としての價値も亦なか／＼大なるものである。だから練餌の材料に

乏しいかはりに是等粒餌の多い地方では、敢て他から材料を買入て練餌を與へなくとも、此簡單な粒餌を給與して、時々材料を得た時にのみ練餌をやればよいと思ふ。

飼料の分量

鶏の食餌は鶏體の大小、年齢、種類、飼養法、氣候等によつて一樣には申されんが、餘り肉類や上等飼料が過ると、「脂肪症」と云ふに罹つて産卵を中止するから、是は大いに注意を要すべき事である。而して練餌の材料配合や穀類の様な粒餌の分量は、鶏の健康状態や産卵歩合の状況を考へて斟酌するがよい、其回数は一、二、三回として分量を案配し、朝餌は粗食でもよいが、晩餌は可成く上等品を與へるので、素人は給與後二時間を経過して餌器を検査し、其喰殘しも喰ひ不足もない状態を適當と定めるのがよいと思ふ。今一雄四雌即ち五羽に對する食餌量を述べる。

▲朝餌(練餌)

▲晝餌(粒餌)

▲晩餌(練餌)

一 殘飯 茶碗二杯。 一 雜穀 一合五勺。 二四 一 麥糠 三合。

一 米糠 三合。 一 豆腐粕 二合。

一 魚屑 一掴。 一 青菜 一株。 一 魚屑 二掴。

一 青菜刻 茶碗一杯。 一 青菜刻 茶碗二杯。

の様なものだが、粒餌の多い地方では朝のみ殘飯か麥糠で練餌を與へ他は粒餌となすので、其分量は一日分を荒麥三合若くは四合とし糶、雜穀等を與へる場合も此位でよろしい。又一雄九雌の食餌一日の分量は、極く手輕な場合を揭示して、

▲朝餌(練餌) 一 殘飯 茶碗二杯。 一 雜穀 三合。

▲晝餌(粒餌) 一 麥糠 四合。 一 米糠 三合。

▲晚餌(練餌) 一 麥糠 四合。 一 米糠 三合。

一 魚屑 二掴。 一 青菜 一株。 一 魚屑 二掴。

一 青菜刻 茶碗二杯。 一 青菜刻 茶碗三杯。

一 青菜刻 茶碗二杯。

恁な物だが、私の實驗した、「名古屋コーチン」一雄六雌の一日分の食餌量は次の様で、是は至極簡單ではあるが夫れでも一箇年に鶏卵全數一千百八十顆、價格二十八圓九十錢五厘、鶏糞五圓六十七錢合計金三十四圓五十七錢五厘を得たのである。

▲朝餌(粒餌) 一 糶 三合。 一 雜穀 一合。

▲晝餌(粒餌) 一 雜穀 一合。 一 青菜 一株。

▲晚餌(練餌) 一 麥糠 四合。 一 殘飯 茶碗一杯。

一 青菜刻 茶碗二杯。 一 魚屑 一掴。 一 青菜 茶碗二杯。

要するに廢物利用では種々の材料を與へるのだから、私の以上記載した様なものばかりには行かぬので、是は其大要を揭示たに過ぎぬものと讀者は考へてもらひたい。

飼料給與の變化

飼料は常に一定の物をのみ給與ると鶏は夫れに飽き易いから、必ず材料を得るに任せて種々なものを給し、勉めて其變化をなすのがよい、此點から見ると我廢物に飼料を仰ぐ養鶏は最も愉快な例へば朝は米糠を主となしたが、晝は穀類が重で、晩は麥糠が多いと云つた様に、一日の中にも夫々變化ある如く、四季折々の飼料を種々に變化して行くのが、最も肝要であるから次に其大要を説述て見やう。

(1) 春季の飼料 春季は總ての鶏が最もよく産卵する時期ですから、充分に食餌を與るのだが、「軟殻卵」を防止ぐために貝殻類を割合多く給し、又此際は鶏が非常に野菜や軟草類を嗜好ので、夫れを充分に喰べさせるが宜いのだ。而して春季は、「種卵採取期」であるから受精の確實な善良の卵を得る爲めには、農家ならば昨年の秋收穫の際準備した上等糞や、水溫む野川から獲る雜魚類等の様なものを可成く多量に給與るがよい。

(2) 梅雨期の飼料 此時季は鶏の健康に故障が多いから可成く上等の飼料を與へ、又練餌の水分等も大いに減じ、残飯は餘り水の含んだのを其儘やらずに勉めて水分を切るのだが、此際は練餌の回数を少しにして、粒餌を多量するがよい。夫れで蠶蛹や荒麥等は此頃に得易いから勉めて左様な物を多く與へ、外に強壯劑として、「林檎酸丁幾」又は「鐵水」の少量を飲水に加へるがよい。又興奮劑として、「唐芥子」「胡椒末」等の特別飼料をも與ふるのである。

(3) 盛夏の飼料 眞夏は養鶏上最も其飼料に留意すべき時期で、練餌は前日の晩に作つたのを其翌朝與るとか、一度に澤山調製して置き、夫れを數時間に亘つて分與のは腐敗の恐れがあるから、非常に警戒すべき事である。又残飯が多く出て與へ切れぬ時は、其残りを日光に乾燥して所謂「干飯」を作ると貯蔵が出来るから、時々其儘粒餌として與るか、一寸水に浸して給するがよい。尙夏季は、「雜魚」「蝗虫」「田螺」

等の食餌となるべき材料を容易に得られるので、是を充分與へるのであるが、又梅雨季の様な特別飼料の給與も忘れてはならない。

(4) 秋季の飼料 秋は鶏の食欲が大いに進む時だから、其飼料も種々な物を與へるのだが、此時季は鶏一年の厄難である、「換羽期」と申して全身の羽毛が脱落し、新しい羽と交代から、總ての鶏が誠に衰弱るので、充分上等の飼料を與つて、早く換羽を終了せ産卵の増進を謀らねばならない。夫れで秋季は種々な雑穀類を收穫する時だから、落米、糝等の粒餌を主に與へ、又肉類、魚類の時期なので、可成く左様なものを捕獲して與るのである。

(5) 冬季の飼料 冬季は寒氣が鶏の體に堪へ難いから脂肪分に富んだ肉類、魚類の様な食餌を練餌として多く與へ、嚴寒の際には興奮劑として唐芥子、胡椒末を用ふるがよい、殊に寒地では練餌の凍るを避け、又飲水の凍水勝を防ぐために、「微温湯」を用ふるもよい。尙青菜類に

缺乏い時だから其準備も必要だが、鱒 其他の安價な魚類や牛肉、豚肉類が手に入易いので、勉めて左様な物を給與しなさい。

養鶏飼料の給與方法及び其變化に就ては尙記載すべき事柄は多々あるが、夫れは他著に説明するとして、大要斯様になして置くのだ。而して前に御話いたして置いた様に飼料給與は氣候の變化、鶏の健康状態、産卵状況等によつて手加減するは無論で、我が廢物利用の養鶏では、可成く自家より生ずる種々の飼料を用ひ、經費の約節が肝要である。

三、空地養鶏の諸注意

(一) 適種の選擇

目的に適した種類の選擇 養鶏殊に空地利用で、利益を占め様となす者は、適種即ち其飼養の目的に適當した種類の鶏を選擇するのが大いに

肝要で、例へば其飼養の目的が、「採卵」のみを主とする時には、産卵力の非常に旺盛な、「卵用種」を、「需肉」を主とするならば豊肉佳味な、肉用種」を又其目的が、「卵肉兼用」の場合には、「兼用種」を撰擇ねばならない若し此目的と種類との關係を間違へて採卵用に肉用種を飼ひ、需肉に卵用種を選ぶと云ふ様な全然反對の方向に出たら如何でせう、養鶏の目的は、「ガラリ」外れて美事失敗に陥り、實に不快の外はないから 新に空地養鶏を實行せんとする者は深く此點に注意して、適種の撰擇をなすのだが、其經濟上から見た一般的の良種は、第一に産卵量と其價額、第二に糞量と其價額、第三に鶏の體量と其價額等の總収入を積算し、是より練餌代、粒餌代等の總支出を差引たものに就き、最も收益の多額いものであるから、空地養鶏家は此點に留意して、後に示す鶏類の中より適種を選出のがよい。

飼養地の氣候風土に適した種類

適種と云ふのは只經濟上から其目的

に適した種類ばかりでなく、飼養者の居住する地方の氣候風土によく適して、其强健な鶏を含むので、如何に其性質が多産で少食でも飼養地に不適當な體軀のものは、實に手數ばかり要つて駄目なのである。例せば彼の多産大卵で艶美な「ミノルカ」種は、採卵用として如何にも適種であるが、是は惜しいかな寒氣に抵抗するのが薄弱く、大冠に凍傷を起し或は寒胃に侵され易くて、産卵を阻害されるから、暖國には適種だが寒地には不適當である。然るに世間には斯様なことは何のお考へもなく、やれ「ミノルカ」がよいと云へば、「ミノルカ」を飼ひ、「アンコーナ」がよいと申せば夫れを探ると云ふ様な事で、氣候風土と鶏種と關係を知らずに、失敗する人々が少くでないのは私の常に遺憾とする所だから、空地養鶏家の大なる注意を希望して置く。

自家職業の如何と種類

世にはなか／＼多忙な職業に従事ふ人も、閑散な務の人も有つて一様ではないが、空地養鶏をなすにも此消息を心得

て鶏種の選擇をなし、本業の繁閑に關する適種を選擇ばならない。即ち收穫期や播種時其他の多忙が時々襲來ふ農家や、家内が少人数で手廻り兼ねる家庭では、其適種なる强健な鶏や、手数に要らぬ種類を選び、務人が町家の人々で餘り多忙でない、相當の餘暇を持つ者は、少し位面倒の要る種類でも夫れが飼養の行はれて矢張是が適種であるのだ。要するに適種の選擇は飼養の目的、氣候風土、職業の如何に依つて異なるのだから其邊をよく辨へて、養鶏には何種でも宜いと云ふ様な危険の思想を持つて行らぬのが、實に肝要である。

(二) 空地養鶏に最も適當の種類

卵用種と其説明

現今我國に飼養されて居る鶏の種類は約五十種許りあるが、是等の中で最も適當した採卵用の實用鶏は、『卵用種』である。卵用種と云ふは總て多數の卵を産み、就巢の念は實に稀だから採卵の目

的には大によいのだが、一般に體軀は輕快く脂肪に乏しいので、肉味は悪く食用には餘り適して居ない。此種は動作が敏捷で能く高飛をなし、廣い場所を好むから柵飼よりも放飼により成績を見るが、空地養鶏として柵飼にして、又利益は決して少々ではなく、早熟、早産で體軀の强健な誠に愛嬌のあるもので有る。而して卵用種中で實用向の最も空地養鶏に適當したのは、『褐色レグホーン』『白色レグホーン』『黒色ミノルカ』の三種で、次に其大略を説明いたさうと思ふ。

(1) 『褐色レグホーン』 『レグホーン種』 中實に産卵の多いもので、白殻の一個十六七の卵を一箇年に二百個以上産むが、羽色は頭部と肩部赤栗色、尾羽は黒色で他の部分は概ね褐色と黒色の緻密な線紋から成つて、頗る美麗である。此種は雄六百多雌四百多の小形だが、其成績は私の實驗によると、一雄四雌で一箇年に産卵量拾三貫六百三十四匁、價額十八圓七十六錢八厘、糞量三十六貫五百匁價額二圓二十一錢

三厘、鶏體量二貫二百十五匁價額二圓二錢合計二十三圓一厘で、練餌代一圓六十四錢二厘五毛、粒餌代一圓四十六錢合計三圓十錢二厘五毛、差引純益十九圓八十九錢八厘五毛を得たが、無論之は柵飼で飼料も何程か買入れた場合の計算である。

(2) 白色「レグホーン」本種は現今普く飼養されて居るところの鶏で、米國「ヤング氏」と「ワード氏」系のものが我國に輸入された以來、好評湧くが如く白色の鶏と云へば直ぐに是を指さす程よく知れて居る雄は六七百匁雌は四百匁位、矢張早熟早産で一箇年に二百箇以上を産み一箇の卵量十七八匁あるが、羽色は純白雪の如く、姿勢は優美で實用觀賞共に具備て居るが、體軀も頗る強健で寒暖何地の飼養にも適當して大いによい。而して私の知人が柵飼一雄六雌から得た廢物利用に依る成績は、一箇年に卵數一千二百九十個價額二十九圓六十七錢五厘糞量五十二貫五百匁、價額三圓十五錢合計三十二圓八十二錢五厘、飼

料代諸雜費一圓八十二錢三厘、純益三十一圓二厘であつた。

(3) 「黑色ミノルカ」是は地中海「ミノルカ島」の原産で、黑色の美なる光澤ある羽毛と、豐大な冠りと肉髯及び圓大なる耳朶とを持つから非常に艶美なものと姿勢のよいので好評噴々たるものである。而して卵用種中體格の大なるもので雄八九百匁雌六七百匁だから、卵量も亦重くて一箇二十匁の大卵を一箇年に約二百箇を産むが、幾分多食の嫌ありと寒地に不向なのは實に遺憾だと思ふ。或農者が「ミノルカ」一雄九雌の成績を掲げると、一箇年に産卵一千八百個價額三十五圓、糞量七十六貫價額四圓五十六錢合計三十九圓五十六錢を得、飼料代藥品代等三圓二十七錢三厘を差引、純益三十六圓二拾八錢七厘を見たのであつた。

兼用種と其説明

是は其目的が卵肉兼用にあるから、形態や性質も卵用種と肉用種との中間に有るので、卵も多く産み肉味もよく、且つ就巢

性に富んで孵化育雛に非常に巧妙だが、其性質は又大層温順、幾分粗食に堪へて柵飼としても適當なるにより、誠に調法な種類である。だから近來諸方の家庭で追々飼ふ様になつたのは、實に當然の事であるが、種々ある兼用種の中で空地養鶏に最も適當した利益の多い安全第一の種類は、「名古屋コーチン」と「横斑プリマスロツク」の二種で、私は次に其畧説を試みやうとするのだ。

(1) 「名古屋コーチン」 此種は明治初年頃我國の名古屋地方で作出た鶏種で、雄一貫目雌八九百匁、一頭十六七匁の赤殻卵を年に二百個位産み、其性質極めて温順、體態頗る強健、よく粗食に堪へて狭小い箇處にも割合多數飼養されて、一坪に五羽位は儘かによいのだ。而して肉味は非常によく、孵化育雛にも最も巧妙な、「生た孵卵器」とまで呼ばれるのだから、誠に調法であるが、其羽色は淡黄赤色で脚毛を有つのと持たぬのとがあり、此種は總ての點から考へても、實に優良鶏で

あると思ふ、私が此鶏一雄七雌から得た成績は、何年か研究したので平均して示すと次の様だが、是は勿論自家廢物を飼料にして必要材料のみ買込んだ場合のものである。

收			入			支 出			差	
産卵數	價額	糞量	價額	價額合計	飼料代其他	純	益	引		
一三八〇	三、七四〇	六〇、八〇〇	三、六四八	三、三三八	一、五七六		三三、八一〇			

(2) 「横斑プリマスロツク」 本種は「プリマスロツク」中の最も實用的の鶏で、卵肉兼用種の優等なもので有るが、一頭十六七匁の赤殻卵を年に二百個以上産み、體量は雄一貫匁雌八九百匁に達し、肉味は一種の風味を持った頗るつきの佳美さである。其性質は「名古屋コーチン」と同一だが、此鶏の態度は何となく氣高い實に立派なもので、近來諸處に愛養される様になつた。或知人が、一雄九雌の収益を調査した

のに依ると、次表の如くである。

收				入		支出		差
産卵數	其價額	糞量	其價額	價額合計	飼料代其他	純	益	引
一九三五	四四、五〇五	七五、三五	四、五一九	四九、〇三四	二、〇二五			四七、〇〇九

(二) 多種類の弊害と雌雄の配合數

多種類飼養の弊害 我が空地養鶏では多種類を飼養する事は實に大禁物で、彼の同一の柵内に雄は「ミノルカ」で雌は、「白色レグホーン」とか、雌は「名古屋コーチン」で雄は、「褐色レグホーン」と云ふ様なものや僅々十羽の中に種々雑多な種類を含むのは、非常に不快なことである若し斯様にすると鶏各種が勢力競争の上から種々な忌しい故障を惹起し、又は劣等な交雑を生じて生産力の薄弱な者ばかりになり、遂に養鶏の目

的は達せられぬから、此點には非常な注意を希望するのだ。地方の農家等へ行くと種々雑多な鶏を混同して飼つてゐるのを見受るが、是では何の利益もなく、鶏は只食餌ばかり喰ふ無益有害の動物に終るより外はないので、必ず空地養鶏には只一種類に限るのを忘れてはならない。

雌雄の配合數

元來鶏の性質として雄がなくとも産卵するので有るが其産だ無精卵と云ふのは孵化の出來ぬ、種卵には駄目なものである。然し夫れは他の卵よりも長い期間の貯藏に堪へると云ふので、採卵の場合には雄は全然無用で有ると云ふ人々を見るが、鶏は雌ばかりで雄がない時には、教導者を缺くために少しの物音にも容易に驚き騒ぐから、却つて夫れが大害を醸して産卵が減少する原因となるので實に宜しくない。だから可成く不經濟にならぬ様にして、一雄四雌とか一雄六雌若くは一雄九雌と云ふ様に十羽以下の羽數には雄を一羽になすのである。

四、種卵の孵化法

(一) 人工孵化と天然孵化

人工孵化

種卵の孵化法には人工孵化と天然孵化との二法有るのだが人工孵化とは、「孵卵器」と申す器械の作用によつて、人が種卵に適當の温度を與へて孵化させる方法である。此方法によると一時に何十何百と云ふ極多數の種卵を孵化することが容易に出来るので、非常な便利だけれども、其器械の使用法に熟練しないとなく、甘くは行かないが、近來は種々な輕便で精良のが發明されたから、其失敗が何程か減少やうになり、むしろ完全なものと云つて宜しいのだ。

然し其價額が何分高價で十五圓以上四五十圓位は致すので、空地養鶏の様に毎年僅か二十や三十羽の雛を得るのには又其必要も認めないが、此

文明の利器を使用して見様とする方々は、共同で購入するのも宜からうと思ふ。

天然孵化

とは母鶏に任せて其體温により孵化を行らせるのだが、是は昔から諸方で行つて來た最も普通の事で、常に母鶏が雛を保護し總ての事に注意するから、飼養者は只時々必要に應じて食餌や飲水を給與れば宜いので有る。然し此方法によると一時に多數の雛を飼育する事は出来なく、又母鶏を永い間遊ばせるので、採卵の上からは不便だと思ふのだが、我が空地養鶏では多數の雛を仕立てぬから、人工孵化よりも此方が却つて經濟的で且つ簡便である。だから私は空地養鶏に於ける孵化法には、天然孵化法を採用のが宜しいと考へるので、今から種卵の孵化法を説くには皆此方法に依るのである。

(二) 種卵の撰擇法と取扱法

種卵の撰擇法 孵化をなすに當つて種卵を撰擇と云ふのは、丁度農夫が播種に先だつて、善良ところの種子を選むと同様で、誠に重要な事であるからよく、深い注意を要するので有る。何故種卵は左様によく選まねばならぬのかと申すに、鶏は、「遺傳性」と云つて親鶏の性質や形態を其雛鶏がひどく受継ぐので有るから、優秀な成鶏から得た種卵を孵化すと、矢張其雛も將來は優秀な鶏となつて、澤山の産卵をなすとか、姿勢や鳴聲や羽色が美事なものとなるからである。然らば如何な種卵が宜いのかと申すに、必ず次の様な注意事項が大いに必要で有るから、まさに孵化をなさうとする人々は、深く此點を反省のが宜しい。

- (イ)産卵、形態、羽色共に優秀な親鶏から種卵は必ず得ること。
- (ロ)満二歳以上三歳までの無病健全な鶏から得たもの。
- (ハ)種卵の大きさは其種類普通のものを選び、大小に過ぎるものや眞圓

形のもの或は細長きは必ず避ること。

(ヨ)卵殻面に凹凸があるか、甚だしい縊目を表はすとか、或は多くの粒状物を持つのは種卵として不可なること。

(ホ)種卵は産落してから精々十日以内のものたる事。

先づ此位の注意をして撰擇は間違ひなく、若鶏や老鶏の産だ卵及び畸形卵、古卵等は孵化に駄目なのだから、必ず採用ぬのが宜しい。

種卵の取扱方

は又頗る重要な事で、折角苦心して選上た善良のもの、其取扱ひ方が粗畧で有つたらば、種卵の内部に異状を起して、必ず孵化ぬもので有るが、

(イ)激しく振動かし或は強く轉倒ぬこと。

(ロ)氣候の變化激しい箇處に貯はへ置かぬこと。

等は取扱上最も重要な注意事項であるから、遠方より取寄せた種卵は必ず数時間静置して、其動搖を鎮めた後に夫れを抱かじめねばならない。

三 孵化の季節と巢鶏の撰擇

春季の孵化

孵化は四季を通じて何時でも實行が、何時頃最もよいかと申すには是は雛の成長と將來の利益に大關係が有るから、極適當な時期を選んで行るのが誠に肝要である。だから雛の成育によい氣候から見ても食餌から考へても、甚た孵化に適當した季節は、三月から五月までの春季、殊に四月が宜しいのだが、此時孵化した雛は、

(イ)氣候もよく昆虫其他食餌となる動物に富むから、發育最もよくて管理も亦容易なること。

(ロ)春季の雛は其年の秋季に成鶏となつて、他の鶏が換羽のため産卵を休止む時に卵を産みはじめるので、利益多く、尙來春まで引續き産卵を經續るから至極宜しいこと。

等の美點を持つが、梅雨期、暑期の様な雛には大いに危険時期を過ぎる

から、其際は飼養者の誠に注意を要する嫌ひは有るも然し四月の雛ならば餘り心配することはないのだ。

秋季の孵化

寒國地方では必ず此春季の孵化を逸してはならないが暖國地方の雪を殆んど見ない所では、秋季即ち十月中旬の孵化も亦大いに便利で、次の様な美點を持つので有る。

(イ)一寸冷氣に注意すれば其發育誠によろしく、病氣、害虫等の發生がないから、實に安心なること。

(ロ)秋季の雛は其産卵季が翌年の晩春から夏季にあるので、他鶏が産卵極く少い時に多くの採取を見る都合よきこと。

巢鶏の選擇

巢鶏には人が大切な種卵を托して孵化の總てを一任するのだから、其性質や形態等孵化に必要な能力の充分ある完全なものでなければならぬが、巢鶏の撰擇上必要な事項を擧ますと、

(イ)性質温順で體軀の餘り大きでない、無病健全なもの。

(ロ)抱卵に熱心で可成くならば一回孵化に経験の有るもの。
 斯様なのがよい、若し性質の粗暴いものや、抱卵に不熱心になると、
 大切な種卵を破壊したり途中で抱卵を中止するなど種々の故障を惹起し、又
 病氣の有る巢鶏は夫れを雛に傳染させるから、左様のは決して採用ては
 ならない。而して巢鶏に最も適當な種類は兼用種で、殊に「名古屋コー
 チン」、「ブリマスロック」等は非常に孵化が巧妙であるから、「生た孵卵器」
 とまで呼れ、大いに能力あるものだが、卵用種の「レグホーン」や「ミノ
 ルカ」種は、まあ孵化には駄目なので、決して採用てはならないのだ。
 〔續座〕 巢鶏に就て述べたから其序で「續座」と云ふことを申さう、
 是は巢鶏の拂底な時に實行する方法で、夫れは一回種卵を孵化させて引
 續き其場で同一の巢鶏に第二回の孵化を行らせる方法である。即ち第一
 回の場合に雛が生れると順次夫れを母鶏から取去つては、其都度一個宛
 の「模造卵」を與へ、取つた雛は其鳴聲が母鶏に聞えぬ様な箇處で假母

器を用ゐて飼育するのだ。而して孵化次第雛を取つて仕舞つたらば、新し
 い種卵を模造卵とを取換るのだが、是は母鶏に對して非常に氣の毒の事
 で且つ其體力が大層衰弱るから、斯る場合には是非共飼料をよくして、
 糯米の碎片や少量の玄米などから上等の穀類及び種々の動物質と青菜類
 等を與へ、尙常に新鮮な清水を缺さぬのがよい。然し此續座は二度位ま
 ではよいが、三回以上も行ふと母鶏の衰弱は一通りではなく、遂に斃死
 から度數多く行るのは實に好ましくないと思ふ。

(四) 巢箱及び孵化の場所

〔巢箱〕 即ち種卵を入れて母鶏に抱卵を行せる箱は、古桶、空箱等其他何
 にも宜しいので有るが、其底には必らず藎の薄片を敷いて夫れに藁屑
 乾草と云ふ様な物を置き、中央には凹所を作り是に種卵を安置する様に
 取なせば宜しいので有る。

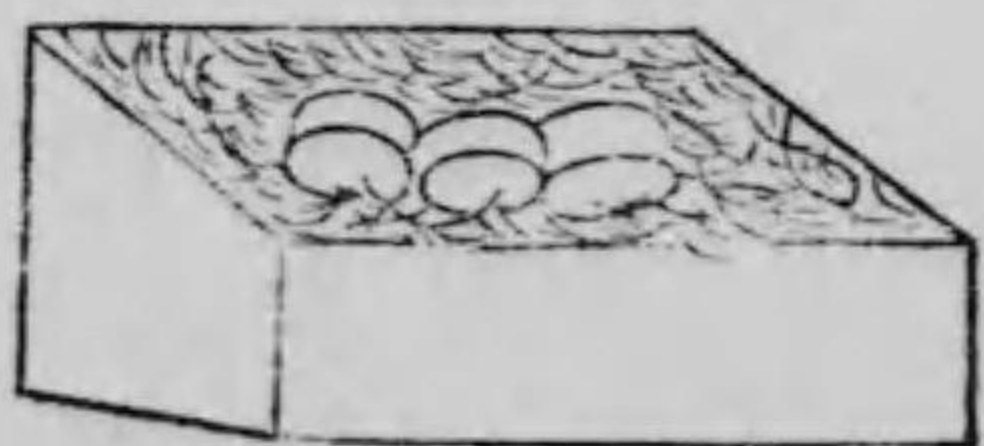
孵化の場所

巢箱を置いて種卵を抱かせる箇處は、餘程の注意をいたさぬと、孵化の成績に大影響を及すから、私は常によく研究するのだが其最も適當な場所は次の様である。

(イ)物の音響や振動をあまり激しく傳へない、大いに閑静な然も薄暗い地上なること。

(ロ)他の牝鶏や動物の接近やすいとか、又は人足の繁しい箇處は必らず避くべきこと。

(箱 巢)



＊と。斯様な注意を等閑になす時には、巢箱は外部からの種々な刺戟を受けて不安の念を起し、抱卵の熱心を缺か、途中で「格放れ」をするから誠に宜しくない事である。

(五) 抱卵の仕方と抱卵数

抱卵の仕方

巢箱に孵化を行せるのには、最初から種卵を與へなくて先づ三四日間は模造卵と申して木製や硝子製若しくは陶器製のもので、眞の鶏卵と同様に其外形が出来るもの數個を抱かせて、抱卵に熱心であるか否かを確かめ、愈々夫れが宜しいとなつたらば、初めて選抜いて置いた種卵を托するのである。而して此模造卵と種卵と交換するのは、決して白晝に行なはぬので、必らず夜間静かになすので有るが、抱卵に就て尙注意すべき事は、

(イ)大小異種類の鶏の種卵を抱かしめぬ事。

(ロ)産卵後の日數に遅速ある種卵を托させぬ事。

の二箇條だが、若し此事項を無視て行りましたらば、孵化の日に遅速を生じて取扱ひ上實に不便な許りでなく、種々の故障を惹起しますから、空地養鶏家の大いに考慮を要すべき事である。

抱卵数

は無論巢箱の體格と種卵の大小とに依つて異なるのであるが、

普通拾六七夕の種卵ならば、六七百夕の巢鶏一羽に十三箇から十五箇位が最も適當で、私はいつても、「名古屋コーチン」の雌に、「レグホーン」若しくは、「ミノルカ」種の種卵を十三箇から十七箇位の間托して見るが、今其實験成績の一部を表示すと、次の様な成績を見るのである。

種卵名	個數	無精卵	腐敗卵	破壊卵	半生胎	孵化數	孵化歩合
白色レグホーン	一五	〇	〇	一	〇	一四	〇、九三
名古屋コーチン	二三	一	〇	〇	〇	二二	〇、九三
黒色ミノルカ	一六	〇	一	〇	〇	一四	〇、八七
横斑プリマスロック	一七	一	〇	〇	一	一五	〇、八八

要するに少數は害なきも多數に過る時は、破壊卵や腐敗卵を割合に多く生ずるから、誠に大害で且つ不經濟なるものと心得ねばならない。

(六) 抱卵中の注意

巢箱の清潔法

抱卵中は全然巢鶏に一任して餘計な心配は決して要らぬが、其間には又種々の注意も少くはない。先づ第一は巢箱の「清潔」で、時々糞屑や敷産を新しいのと交換てやり、又鶏糞や其他の汚物はよく怠りなく取除るので有るが、若し破壊卵や腐敗卵を生じた場合には、早速夫れを取去つて他の良い種卵を汚させぬのが大いに必要である。夫れで斯様な諸注意を等閑にして巢箱が不潔勝であると、續々「糞虫」「羽虱」等が発生して巢鶏を苦しめるから、其結果は抱卵の中止となるが、種卵の生活力を失なはせるとか、誠に忌はしい事ばかり起るので、抱卵中の清潔は大いに必要な事柄で有るのだ。

巢鶏の食飼

元來巢鶏は固い種類の食餌を好むから、小麦、粃米、大麦、玄米等の様な粒餌や青味、魚屑、石灰分をはじめ、其他の物を給與

るのだが、常に清水は飲さぬのがよい、勉めて鶏體の健康を保持つ様な方法を採るのが實に肝要である。

巢鶏の運動

總て巢鶏は一日一回位其巢を離れて食餌を求め、脱糞をなし、砂浴をして再度巢に入るのであるが此間に要する時間は三十分で、夫れ以上を経過ると宜しくないから、若し長く巢に歸らぬ様子が見たる時は、靜かに巢へ導く方法を採るとか、又は種卵に毛布を掩ふて其冷却を豫防ねばならない。

檢卵

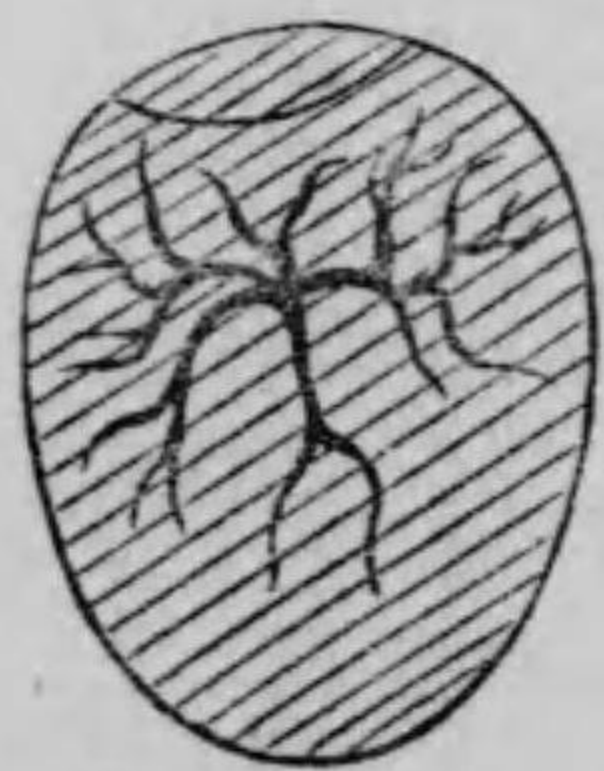
抱卵後五日目の夜間に、「檢卵」を行つので、是は種卵を燈火に向つて透視ので有るが、「檢卵器」を用ふれば尙一層明白である。而して此時卵内が透明のは、「無精卵」と云つて孵化の出来ないのだから早速取り、「卵内の黒く見へて其中に赤い血線を表はしたのは、「有精卵」で孵化のだから、其儘置かねばならぬ。夫れから第二回は七日目第三回は十八日目に行ひ破壊卵や腐敗卵を生じて種々の故障を起さぬ様にするのだが

此檢卵をなす目的は次の様で、

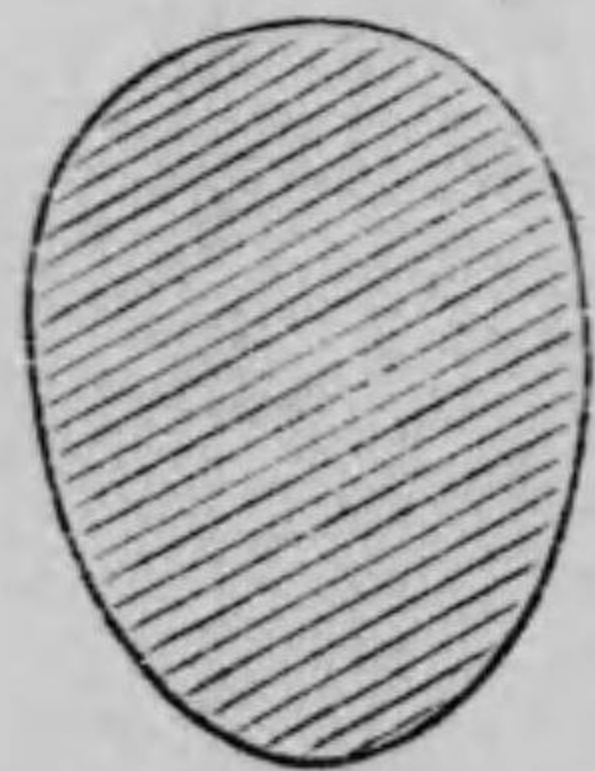
- (イ)無駄な卵を永く抱せて巢鶏の體温を空費させぬこと。
- (ロ)無精卵の餘り多い時は、他の卵と取換る事。

是は誰も必らず行へべき事の一つだが、初心者は餘程注意せぬと檢卵をなしたために、失敗を招くから實に考へものであると思ふの*

(卵精有)



(卵精無)



難産卵の取扱ひ方

卵

内の雛が既に孵化り得るまでに發育して居ながら孵出る氣力が少もなく、小さな聲で鳴いてるのを「難産卵」と云ふのだが斯様なのを其儘打捨置く

と、遂に可憐な雛は其中で斃死するのである。だから斯様なのが發生した時には、先づ卵の鈍端の空虚になつた箇處を傷付て次第に其殻を剥取る

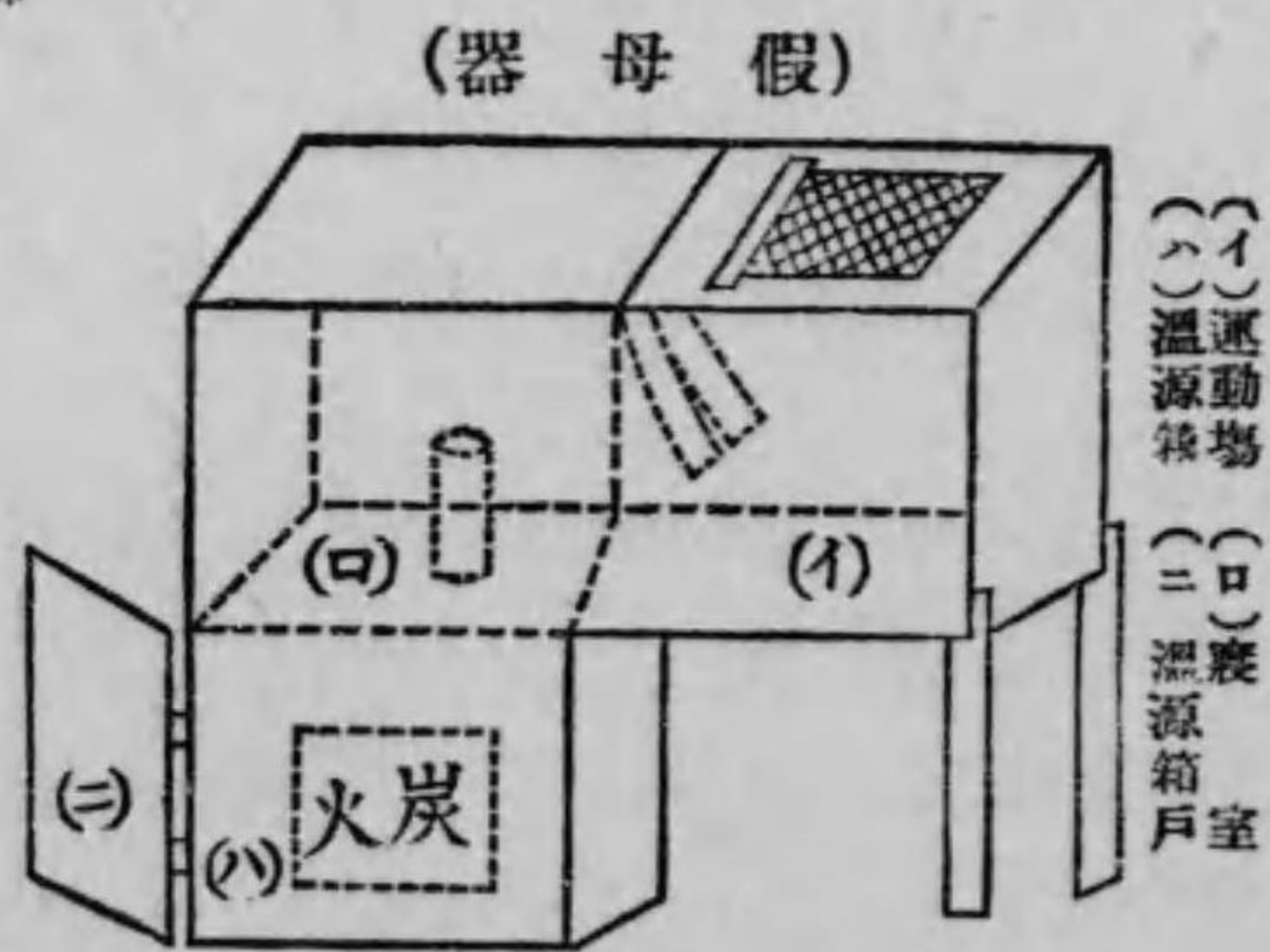
のだが、若し此場合に出血したらまだ孵化の時機が早いので、其剝取は中止で卵内へ少量の食鹽水を注ぎ、雛の口中には、一二滴の清水を飲ませ、静かに巢鶏の腹下へ入て、徐ろに時機の到来を待つ様になさい。夫れから數時間の後に検査て愈々出血が止り、時機が到来したならば、全部卵殻を剝取り、雛の口中へは清水二三滴を含ませ、是を巢鶏に任せるか假母器の中に收容するのだが、斯様な雛は大いに虚弱で、「食滯や」「糞づまり」等を起し易いのである。

五、雛鶏の育成法

(一) 人工育成

人工育成 是は人が、「育鶏器」即ち、「假母器」と稱する器械を使用して母鶏なしに雛鶏を育有する方法で有るが、この法に依れば母鶏の踏殺す心配も、害虫の傳播こともなくて至極便利なもので有る。而して假母器で育成た雛は誠に人に親み深く可愛らしいものだが、近來種々な假母器を使用して育雛を行ひ、なか／＼好成绩を示しつゝ有るは實に喜ばしい事である。

假母器の構造及用法



(イ)運動場 (ロ)寝室
(一)温源箱 (二)温源箱戸

全體の形状は圖の様で有つて、初生雛二十羽位を收容には、幅一尺三寸、長さ三尺高さ一尺の中には、何か鐵葉鐵の様なものへ炭火を入れ、下から寢室を温めるので有るが、寢室の床上には薄板を敷いて其上に綿類の様な温かい物を

置き、運動室との境界には、「フランネル」類の布切を吊して温度の放散を避けるので有る。而して寢室の温度は初め一週間は九十度内外を保たせ、次第に低減て行くのだが、十五六日も経過と日中の温暖な時は火氣を廢しても宜く、廿五六日の後には全然假母器から取離しても宜しい。

(二) 自然育成

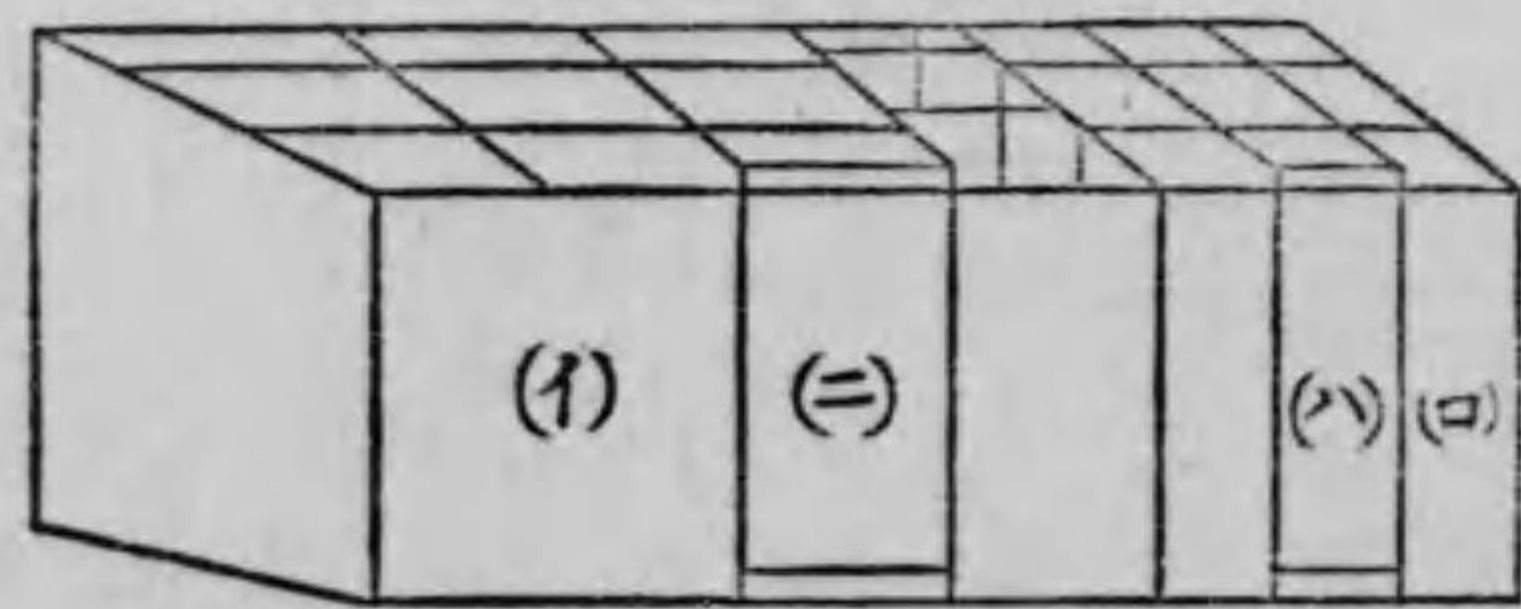
自然育成 とは孵化した雛を其儘一切母鶏に任せて置く方法で、是は従來行つて居る普通のものだから、其説明の必要を有たぬが、總ての事を母鶏が注意して人工育成の様に多くの手数を要せない。だから此法は地方農家の様な常に多忙な家庭には最も適したもので、我空地養鶏では是を採用のが宜らうと思ふのだ、夫れで極く幼弱な雛を初めから廣い箇處に放つと、母鶏が諸方を連廻つて運動が過るとか、種々な食餌を喰るとか或は猫、鼠、其他の害敵に襲はれ又は水溜などに轉落とかの忌はしい

故隙を起すから、最初二週間位は、「育雛箱」と云ふ物を製作て、其中に飼養ふ必要を見るので有る。

育雛箱

には種々有るが先づ長さ三尺七八寸、幅高さ各々一尺三四寸の木箱を造り、是を大小の二室に區別ち、其境界には格子戸を設て雛のみ自由に兩室を往來する様になし、小室には母雞を置いて夫れ以外に他へ行く事の出來ぬ装置ですが是に依ると母雞が雛を踏るが、是は最も安全なもので、

(箱 雛 育)



(1) 運動場 (2) 母雞入口 (3) 雛入口 (4) 母雞居所

殺す事も、雛の運動が過度に疲勞することもなく、至極便利なもので有る。私は圖の様な極く手輕なもの廢物に等しい安價の屑板で自作し、其上部には竹格子を設け猫、鼠、等の手の入らぬ位な間となして、其攻撃を豫防するが、是は最も安全なもので、實に空地養雞の様な廢物利用を主とする

ものには適當した雛箱であると思ふ。

伏籠 雛が稍成育して来た時は毎日一二時間宛母雛から取離して雛のみ、「伏籠」の中に入れて運動を採らせるのがよく、此伏籠の大きさは直径

三尺高さ一尺七八寸の竹製のものか、金網製の物を使用するので有るが注意すべきは其籠の地上に接近い箇處五寸許は編目を稍密かにする事で若し編目が大きいと雛が夫れから頭を外に出して悶き、喙を突たり頸を痛めるから實に宜しくない。私の使用して居る伏籠は近くの籠職に作らせたので、其價額は四拾錢位の物だが、巧者な人では自作が出来から種々な便利の形を工夫するがよく、若し少しは高價でも立派なものを欲する者は、「折疊自在金網伏籠」一組壹圓五拾錢の物を購求ると宜しいので有る。

母鶏と雛との分離 雛と母鶏とは何時頃分離して宜いかと申すに、生後三週間程になれば翼や尾に丈夫な羽毛が生て来ますが、斯様になれば最

早母雛から取離しても宜いのだが、早速夫れを實行して差支へはない元來母雛を永く雛に附けて置くのは不經濟の仕方ではあるが、空地養雛で行る様に可成く人が手数を要けぬを目的とするには、少し位永くはなつても母雛任せの方が宜からうと思ふが、母雛から取離した雛は初め暫時は、十分な管理の下に、其發育を遂げしむる様になすので有る。

(二) 雛の食餌と其給與法

餌付及其飼料 抱卵てから待に待た雛の誠に可愛らしい産聲が「ピヨ

〜」と擧つたならば「やれお腹がすいてるだらう」「何か欲いだらう」等申して直に食餌を與のは、其親切が却つて仇となるから、孵化の鳴聲と聞いたら夫より廿四時間は其儘母雛に任せて置き、必ず何物も與へてはならない。而して雛の軀も乾き消化器も整頓て來るのを待ち、雛を假母器に移すか母雛と共に育雛箱に收容て、十二三羽の雛には最初、

「湯煎卵」の「卵黄」を二個一日五六回に分與へ、又、「青菜」の極く微細に刻切だのを甚だ少量喰させるのだが、此初めて給食のを、「餌付」と稱するので有る。

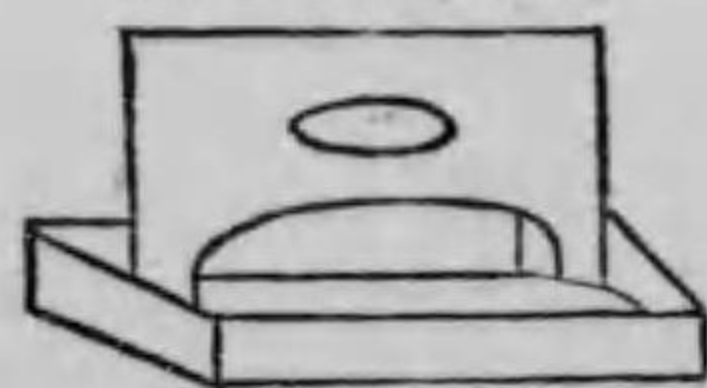
雛餌の変更

雛の食餌を変更には必らず急激でない様に甲の餌から乙の餌に徐々と移らなければならぬが、餌付後三日間位は可成り消化し易い食餌を與へ、次第に消化器*

(器水飲用雛)



(器餌給用雛)



*の發達するに従ひ、穀實を搗き碎いた荒粉や動物質の飼を與へるの

で有る。而して二十日目位からは稍大粒の物を與へ、四五十日過ぎた頃は今迄の飯餌の外に成雞同様の餌料を追々給するが、今次に雛餌の変更法に就き、其大畧を説述て見やう。

(イ)第二日目には餌付時を同様の食餌を與へ、尙水に浸した小米極少量

を與のだが、三日目も矢張前日と同様の取扱ひをなし、小米は十羽に

二勺五才位でよい。

(ロ)四日目からは卵黄を廢て、「燒鰯」を骨のまゝ粉碎て與へ、荒粉(穀實の搗碎き)小米及青菜を一日數回與のだが、是より常に清潔な「飲水」を缺さぬ様になさい。

(ハ)一週間目からは前同様の食餌を與のだが、雛の成育に極必要な動物質と青菜は可成り、多量に給するのだ。

(ニ)二週間頃からは小米、荒粉の外に、「大豆」の碎片を與へ、其他は前同様の物を喰べさせるが、回數は一日四五回でよい。

(ホ)三週間以後は朝、晝に米糠三、麥糠七の割合で之に緋の粉末少量と青菜の刻みとを混ぜた、「練餌」を與へ他の三回は前同様の物を給與する。

(ヘ)五週間位までは前同様の食餌を與るが、撒餌として小麦、玄米等を

混て練餌二回、撒餌二回の給與にする。

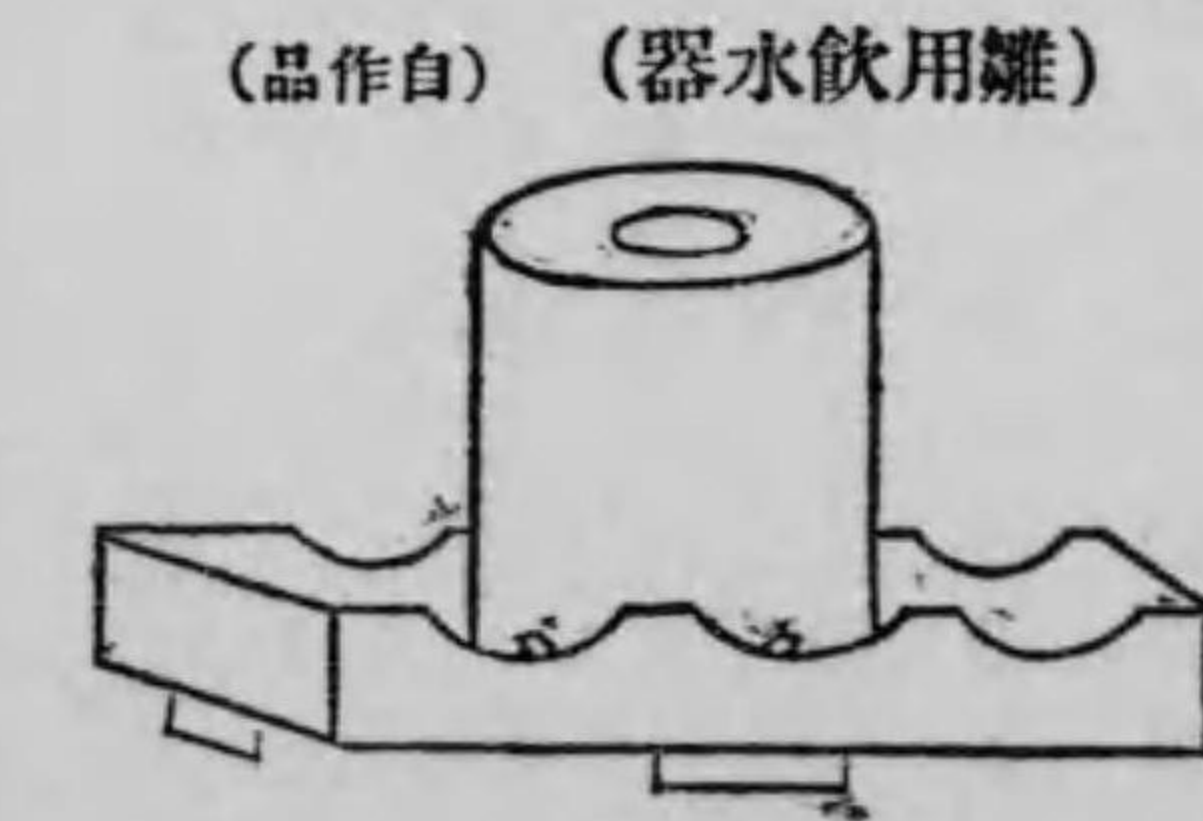
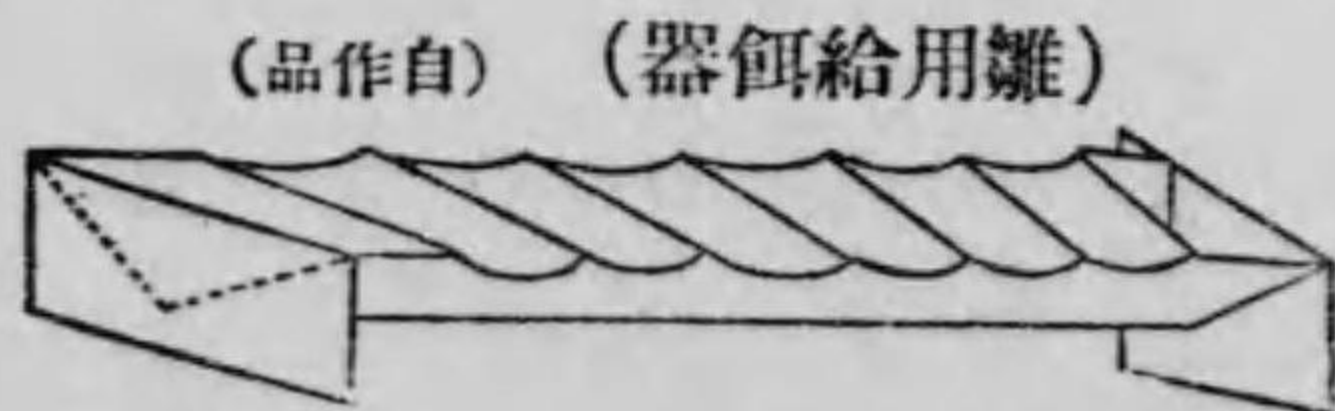
(ト)四十日から六十日後からは矢張前同様の食餌を與のだが、動物質飼料としては魚類、肉類等種々なものを用ゐるのだ。

(チ)百日雛となつた時は全く成鶏同様の種々な練餌朝晩二回と晝は撒餌として雑穀類を一回給與するのだ。

雛餌の分量

總て雛*

い。だから、勉て雛餌の分量には注意し、殊に一週間以内は必らず一時間に、「飽食」させぬ様少量づ、數回與るのがよく、先づ孵化後一週間は十



はまだ、「消化器」の發達せぬものだから、食餌の分量が多過ると、「食滯」

「味囊加答見」等云つた様な病氣や

其他の胃腸病を引起して、遂に斃死するのが少なくな

羽の雛に毎日小米僅か二勺五才より六勺程に進めて行き、夫れ以後は合以上に増加し、三週間後は二合乃至三合と云ふ様な具合にするので有る要するに飼育者は其雛の發育状態と健康の如何に依つて、其分量を手加減するのだから一様には申されぬのであると思ふ。

(四) 雛の管理

雛の運動

雛は孵化後一週間の處はまだ身體の發育が極く不十分であるから、決して廣い箇處へ放つてはならぬが、夫れ以後は二坪位の所を圍つて其中に運動させるが宜しい。而して三週間後は午前午後に一時間位廣い場所に放遊て、飼養者が監督の下に庭園や草原を自由に歩ませ、「虫類」、「草實」等を漁らせるが最も宜しく、實際此「運動」は雛の發育に大効あるもので有る。元來雛の運動は成育上非常に必要なもので、私の實驗に依ると運動を餘り取り取らせぬ狭い所へ飼た百日雛と、運動をよ

く取らせた五十日雛と殆んど其育成状態が同一であるが、一厘の「餌代」を増すよりも一寸の「地積」を増すのが雛には頗る必要だから、飼育者は常に雛の運動をよく行らせるがよい。

毎日の管理

雛に對する日々の管理と申せば、大概次の様で有るが、

兎角幼弱い雛はに種々の故障や災難を受易いものだから、實に深い注意が必要で有ると思ふ。

(イ)早朝食餌と飲水とを與へるので有るが、此時は多くの雛に就て、「健康」に異状なきや否やを検査するので有る。

(ロ)雛は勉めて陽光暖かな箇處に出し、早朝や午後に空氣が冷却する時は可成く外界の激しい風に當てゝはならない。

(ハ)一日一回は必らず前に述べた様に午前か午後に運動を取らせるのである。

(ニ)雛箱は毎日其中の「糞掃除」をなし、乾燥した糞か糞殻を入れて常に

清潔を保持のが宜しい、若し不潔になすと、「糞虫」「虱羽」が発生して雛の發育を阻害すること實に甚だしいのだ。

(ホ)日暮には、「餌袋」をよく検査して食物の過不足に注意し、其他身體の異状なきや否や見るのである。

氣候に對する雛の管理

氣候に對する雛の管理は大いに重要なもので

是がために其發育を妨げ、或は病雛を續出ことがなく有るから、今其管理の大概を申すと、

(イ)春季は晝間大いに温暖で雛の生活には最もよいが、夜間は動もすると空氣が冷却るから、雛箱は舍内の暖かな箇處に置き、殊に假母器の雛は曉方の冷氣を防ぐために温源箱の炭火によく注意なさい。

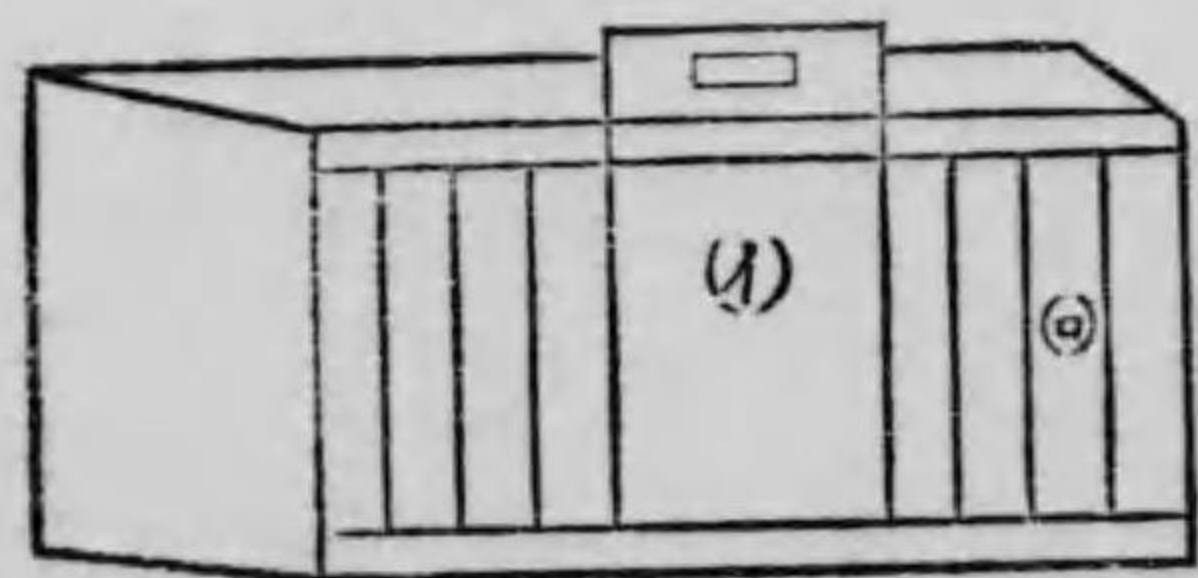
(ロ)梅雨期には濕氣が多く、雛は特に此濕氣を忌むから、常に乾燥た場所に置き、晴天の外は決して舍外に出してはならぬ。又雛箱の糞は濕氣を生ずる原因を助けるから、必らず其掃除を勵行して清潔を保持や

うになさい。

(ハ)眞夏になると彼の最も驚怖べき、「羽虱」「糞虫」等の害虫が発生するから、雛箱の清潔法は勿論時々消毒を行ひ、又空氣の流通を計るの
で有る。而して夜間蚊に攻撃せられると、大いに其成長を阻害するので、時箱の格子は何か薄い、よく風の通して涼しい布片で張るが*

(ホ)冬季は日中暖かな箇處に置き、午後の冷氣には一層注意するので有るが、雛箱の隙間などから襲ふ夜間の寒風は、雛に「寒胃」「ループ病」

(箱 時)



(イ)入口戸(上下)
(ロ)格子戸(開閉)

(三)秋雛は多く冷氣のために斃れるから、夜の注意が誠に必要で、廣い雛箱に少數の雛を入るとか、或は外氣に觸れる様な事をして睡らせるのは大禁物だが、假母器の雛は一層温度に注意するのがよい。

等を起こせる原因となるのだから、其隙間には目張をなし、又寒國では箱の中に糶殻か何かを敷いて暖を探らせ、決して雪や風に曝してはならない。

強雛と弱雛との分離

強雛と弱雛とを混同て飼育すると、弱雛は強雛のために壓迫せられて、其發育が不良となるもので、彼の孵化後三四十日の雛が割合多く斃死するのは、其原因が此點にあると思ふ。だから生れてから一週間も過て此雛が見へて來たら、一箇月程も分離て飼育て、弱雛が健康になつた時を待ち、適當の時機に混同るのがよく、是は育雛の最も重要な仕事で有るのだ。

雛の眠らせ法

同一の箱内に決して多數の雛を眠らせては成らぬが、若し二三十羽の雛を大きな箱内に眠らせますと、箱内の片隅に群集て互に押合ひますから、其群の中で最も下部に押付けられた雛は、俗に「目氣」「鼻氣」と申す目や鼻から水様の汁を垂して斃死するのだ、故に密柑箱程の

大きい物の物は二十日雛なら十羽位、夫れより大きくなるに従がひ、其羽数を減して五六羽を眠らせるのが最も宜しい。

(五) 雛の病氣治療法

雛の病氣

雛は誠に虚弱なものだから、兎角疾病に侵され易く、其多くは食餌に關係した消化器病だから、常に飽食を避けしめ又は粗悪な物を與へずに總てを注意するのだが、普通雛には有勝な病氣二三種をお話いたさう。

(イ) 食滞

病狀と其原因

此病氣に侵された雛は少しも食慾が進まず、誠に不活潑な状態をして居るが、斯様なものを捕へて嚔嚔を探ると、夫れが非常に膨脹れて堅いから直ぐに知れるので有る。而して其原因は多量に食餌

を攝るか、又腐敗性の枯液ある物を喰た爲に、消化不良となつて嚔嚔内に停滯たのである。

治療法

少量の「ヒマシ油」を與へて嚔嚔内の停滯物を去ために、夫れを外部から靜かに揉み下ると宜ですが、若しそれでも無効ならば切開術を行ふのだ。即ち嚔嚔を外部から切開いて内部の停滯物を取除け、其傷口を縫合せて置き、凡そ十二時間も絶食させた後に、豆粉や魚粉を穀物と練混たもの、或は可成り軟かい食餌を與のだ、然し是は二十日雛位でないとは折角苦勞して行つても、餘り効果はないので有る。

(ロ) 嚔嚔加答兒

病狀と原因

嚔嚔に大いに膨脹して瓦斯或は惡臭を放つ透明な液を充し羽を下げ首を縮めて食慾が少しもなく、不活潑な状態をなすが、二三日經過ば遂に斃死して仕舞ふので、其原因は食滞によく似たものである。

治療法 病雛を倒さに持つて嚔囊の液又は瓦斯を悉く搾り出し、微量の、「薄荷油」或は、「炭酸アンモニア」の水溶液を飲せるのである。

(ハ) 下痢

病状と原因

初めは液質の糞を排泄すが、病勢進むに従ひ赤色の肉汁の様な糞をするので有る。斯様なると羽を下げ首を縮めて食慾が少なくな、體力が次第に衰弱て遂には目を閉ぢ一週間以内で斃死が、其原因は暴食の時、動物質の食餌を多量に喰た時、食餌を急激に変更した時、氣候不順な時或は腐敗した食餌を與へた時等に有るのである。

治療法

病雛を乾燥温暖な場所に移し、卵黄の燥だのや澱粉を卵白で練つた物等の如き消化し易い食餌を與へ、藥品としては大黃末の少量を給し、又飲水には明礬或は石灰水の少量を入れて與ればよい。

雛の病氣は大概恁んなものだが、疾病を治療するよりも未然に之を豫防する方法を採のがよく、雛の疾病に關係して其原因となる濕氣、暴食等を避るは勿論、給水や食餌の腐敗に大ひなる注意が必要であると私は思ふ。

(六) 雛の良否

雛の良否を知る必要

雛の良否は養鶏家が殊に我が空地養鶏者が自家の雛を撰抜く場合、又他から購入する際に必要の事で、其良否如何は將來の成績に大影響を及ぼし、成功と失敗との原因は必らず此處に有るから、是は餘程よく心得て居べき事だが、御覽なさい農夫は植付に際して良い苗を撰むではないか。

雛の良否見別法

雛の良否見別法は種々あるが、其大概を申せば先づ次の様な事項に注意するので、初心者にはなかく困難であるも、少しく注意して數回経験してみると、餘程其良否を見分け得るから、雛を育成

る毎に熟練を積るのが宜いと思ふ。

(イ)鼻水を出したり羽を垂れたり又は肛門の汚れて居るのは不健康の悪い雛。

(ロ)眼の生々として羽毛の密に生た、元氣に富むのは健全な良い雛。

(ハ)其種類に固有な挿毛の外體軀の何處かに、少しでも挿毛の有るは不良の雛。

(ニ)體軀が何となく引締つて平均した發育をなす雛は、善良の雛。

(七) 雌雄の見別法

雌雄鑑別必要

雛の雌雄を早く見分て分離し、是を育成する事は育雛費を節約して經濟上大いによく、我が空地養鶏の様な少數の鶏を飼ふて利益を多く見様とする者の最も注意を要する所だが、夫れは非常に經驗を積ぬと困難であると思ふ、今從來唱へられて居る鑑別法を示すと次の様

だが、私は平常經驗して見るので、其的中た時はなか／＼愉快に堪へぬのである。

孵化後三日以内の雛

さて孵化後間もない雛は其雌雄が非常に分り難いのだから、經驗のない初心者には一寸見當が付兼るが、其鑑別法の一

端を述べると、

(イ)頭の大きなは雌で、長く大なるは雄。

(ロ)嘴の小さなは雌で、大きなは雄。

(ハ)顔面の勇猛なのは雄で、優しく見ゆるは雌。

(ニ)脛趾の太く大きなのは雄で、小さなは雌。

(ホ)單冠種では冠肉厚く、缺刻深きは雄で、然らざるは雌。

(ヘ)鳴聲の濁つて強きは雄で、弱きは雌。

孵化後二週間前後の雛の鑑別法

孵化後二週間前後の雛になると、雌雄の別ちは稍明らかになるが、夫とても亦餘程の熟練を積まないとなか

困難だから、先づ次の様な點に注意すれば宜と思ふ。

- (イ) 舉動活潑なるは雄で、其穩かなるは雌。
- (ロ) 體大にして重きは雄で、小さなるは雌。
- (ハ) 歩調小なるは雌で、大なるは雄。
- (ニ) 尾羽の上向なるは雄で、然らざるは雌。
- (ホ) 肛門狭小なるは雄で、廣大なるは雌。
- (ヘ) 主翼羽のみ早く生ずるは雄。

(八) 雛の成長

雛發育の注意

雛の發育當時粗食を用ひ又は不注意に放任する時は、産卵期が非常に遅れ、尙斯様な鶏は多産する事が出来ないから、育雛には餘程の注意が必要で有る、要するに育雛時は經濟に走らず常に優等な飼料を用ひ、一日も早く發育を遂げ産卵せしむる様になすがよい、斯様す

れば却つて手数を要せずに發育が出来、優秀な成鶏を作出す事になり、體質強健能力多産で將來頗る經濟的だが、世間には雛を育成するのに食餌や管理の經濟的方面を餘り考へ込んで節約をなし、粗食に傾き不取扱ひになした結果、其成績は反對に不經濟を招き、失敗する者が多々有るのだから、良鶏を得て多額の利益を見様としたらば其育雛時に食餌や管理を充分に注意して行がよいと思ふ。

雛の成長と産卵期

前述の様に雛の發育時に於て、飼料と管理とに注意して行くと、五箇月或は六箇月迄には産卵を開始するが、粗食と不注意だと十箇月餘も要つて實に不經濟極まるのである。而して鶏は孵化後何日位を経過と産卵するかは、誰も心得て居る様な又居ない様なことで、結局は確實に知らぬ人が多いから、或人の調査たのを一寸掲げて參考に供へやう。

(種 類)

(孵化月日)

(産卵月日)

(初産卵迄の日數)

黒色ミノルカ	四月十五日	十一月廿三日	二百廿三日
褐色レグホーン	五月廿八日	十一月十二日	百六十八日
白色レグホーン	五月廿二日	十二月十四日	二百七日
横斑ブリマスロツク	五月四日	十二月廿四日	二百廿五日
名古屋コーチン	四月三日	九月廿五日	百七十六日

雞の育成に關する事項は尙種々あるが、要するに育雛時は其飼料に滋養分多きものを採り、日々の管理は勉めて親切になし、恰かも人間の子供を養育る様な滋養に満た考へを持つて、常に萬事を親切に取扱ひ、十羽十成を必らず期せねばならない。

鶏の片足づゝや冬籠。
 風ひきの妻よ夫よ卵酒。
 鶏を飼ひけり村の駐在所。

(丈草)
 (子規)
 (失名)

六、成鶏の飼養法

(一) 成鶏の管理

朝の管理 一日中の管理をお話するに當り先づ朝の管理から説明すると、可成り早朝起きて飼料を調合し、夫れが出来たらは餌箱に配布するのだが、此時昨日の喰残りが有つたらは是を取捨て、清潔にするので有る。斯して食餌の準備が終つた時には、鶏を運動場に出して自由に食餌を攝らせ、其際よく鶏に異状なきや否やを見定め、舎内の掃除をなすのである。此掃除と云ふことは至極大切な事で、若し鶏舎が鶏糞のために不潔の時、種々の害虫や鶏病を生じて誠に恐怖べく、殊に夏期や梅雨期には一層の清潔法が必要で有るのだ。

晝の管理 晝は別に是と云ふ作業はないが、只少量の撒餌位を與へる

事と、飲水の取換へを行なう位で宜しい。

夏季は午後五時頃、冬季は三時頃に「晩餌」を與へ、鶏の羽數に注意して充分食餌を喰べた後自然に舍内に入るを待ち、其止木に就くを見て戸を閉ぢるので有る。

盛夏の管理

四季折々の管理の中で其重要な盛夏の管理を述べやうが、夏季の強烈い光線は鶏の健康に大禁物だから、運動場の上部に葦簀類を以て天井張をなして、「日蔽」をなすとか樹木を植付けて、「緑蔭」を作るのだ、又夜間は鶏舎四周の窓を開放して涼しく、且つ窓には古蚊帳か何か極く薄い空氣の流通し易い布片を張つて、蚊の攻撃を豫防のだが、食餌の腐敗しやすい時季だから練餌は餘程注意を要するので、必らず給食の都度に調製ことになし、決して夜越のものや朝のを晩に與へてはならない、又其他發生し易い疾病、害虫の豫防をなすため、鶏舎、運動場の清潔法を勵行し、梅雨期に於ける様な、「消毒法」を一週間に一度は、必ら

す行ふので有るが、特に述立る事は次の様だ。

- (イ) 鶏舎を蒸暑くせぬこと。
- (ロ) 蚊の攻撃を豫防する事及び消毒法を勵行の事。
- (ハ) 鶏糞の堆積やうな不潔になさぬ事。
- (ニ) 練餌の腐敗を避け新鮮い飲水を給與すること。

梅雨期の管理

梅雨期は鶏に最も警戒を要すべき時で、毎日陰雲にとざされた雨から受る「濕氣」は實に鶏には大禁物で、養鶏家の頗る管理を忽諸にすべからざる危険季とも云ふべきである、だから此時季には常に「乾燥」、「清潔」の二つに意を用ひ、「デシンヘクトール」、「クレシン」或は「リゾール」等の薬品で消毒し、「除虫菊粉」、「硫黄華」等の驅虫劑を撒布する。而して尙申述るが此梅雨期は陰晴定まらぬ、人でさへ兎角健康を害する忌な時で、古人は腸が徹るとまで云つたが、鶏にも亦誠に不快を感じる時だから、前申した注意事項の、「乾燥」と「清潔」とは是非勵行

してもらひたいのだ。

換羽期の管理

毎年秋季は鶏の「換羽期」と申して古羽が抜落ち新羽と換る彼等には一年中の厄難期だから、總ての鶏は非常に體軀が衰弱して産卵を中止で居りますが、卵を産まぬからとて其取扱ひを粗鬆にするこ
となく却つて可成く、上等の飼料や強壯劑を與へ、早く完全な換羽を終
了せねばならない。

寒氣の管理

鶏は總て寒氣のため非常に産卵力を阻害されるものだから、嚴寒時にはよく「防寒」に注意をなし、寒風や吹雪の侵さぬ様にな
すので有る、殊に東北地方や北海道等の様な寒地では鶏舎の外圍を藁或
は菰類にて圍ひ、鶏の「凍傷」を防ぐために夜間は特別に「時箱」を製
作して其中に安眠させる等、勉めて鶏體の保護を謀り、又舎内には藁屑、
糠殻類を布きて温暖になし、練餌も微温湯で掻いたのを與へる様になす
のだが、飲水は其凍結を避ける爲に微温湯を用ふるも宜のである。

其他の管理

鶏は總て丁寧に取扱ひ決して手荒い事をしてはならぬが
殊に、「恐怖」と云ふことは大禁物で、採卵種等は子供の追廻しや野犬に
驚いて三四日間も休産する事は往々有るから、誠に注意すべき事である
又害敵の豫防も大必要で、折角無難に來た鶏を一朝の不管理から、狐の
攻撃を受けて一夜の中に數羽を失ふ様なことは屢々あるから、鶏舎の設
備や戸締に餘程注意して、斯様な不覺を取ては實に宜しくないと思ふ。

(二) 鶏の斷巢法と多産法

斷巢法

總ての鶏は四月から五月下旬に掛て澤山の卵を産むが、其終
頃には就巢の念を起して來るので有る、而して此念を斷せる事は採卵の
上に甚だ必要で、實利を目的とする我空地養鶏家は、特別の場合の外は
必らず此念を斷せねばならぬが、是を鶏の「斷巢法」と云ふのである。
今斷巢法に就て世間に實行されて居るもの數種を擧げると、次の様で有

る。

(イ)交尾力の極強い雄鶏と一間四方位の箇處に置と、雄鶏が絶へず交尾を迫つて追廻すので、雌鶏は自然に断巢するに至るのである。

(ロ)巢念の有る鶏の腹を三十分程水に浸すか、或は巢の中に杉葉若しくは松葉の様なものを入置くもよい。

(ハ)手強い手段では有るが、巢念の有る鶏を士間に二晝夜程断食の儘、伏籠を以て被ひ置こと。

(ニ)一寸滑稽でまた氣の毒ではあるが、巢鶏の尾に細紐で赤や青や種々の色紙か若しくは、鈴の様な音のする物を結付ると、鶏は驚いて四方を

駆廻り遂に、「驚怖」と「疲勞」のため巢念を断に至るので有る。

今の所は恁なのが能く行はれて居るが、いまだ非常の名案はない様だから、各自が考案して最も手輕な然かも合理的の有効なものを試みるのがよい。

鶏の多産

空地養鶏の目的は主として、「採卵」に有るから、可成く多數の鶏卵を採る様な工夫を凝さねばならぬが、元來「多産」は鶏の種類に依つて相違の有るは勿論、又同一種類の中にも其「個性」に就いて大きな差異を持つので有る。今鶏の種類につき一箇年の産卵力を私が實驗した其平均數を示すと次の様だが、是は其「食餌」「飼養法」「管理」の如何に依て大いに成績の異なるを知らねばならない。

鶏種	一箇年の産卵數	鶏種	一箇年の産卵數
褐色レグホーン	二三〇	黒色ミノルカ	二二〇
白色レグホーン	二四〇	アンコーナ	二四〇
アンダルシヤン	二二〇	ハンバード	二五〇
名古屋コーチン	一八〇	横斑ブリマスロツク	一七〇

又個性に就て私もなか／＼實驗して見たが、同一母鶏から得た種卵より

孵化した、其飼育法も同様にして行つた一群の「黒色ミノルカ」九羽の中で、或者は二百顆以上も産卵し或者は僅々百五六十顆しか産なかつたが、又、「名古屋コーチン」でも或成績を見たが夫は次の様であつた。

種	類	一羽数	二百顆以上	百八十顆以上	百五十顆以上	百顆以上
黒色	ミノルカ	九	五	三	一	〇
名古屋	コーチン	九	二	四	二	一

而して今鶏の多産法をお話すると、次の二點に注意するがよい。

(イ)多産性を利用する事。

(ロ)多産飼料の給與をなす事。

多産性の利用

鶏は同一の種類即ち、「白色レグホーン」の中でも多数の産卵をなすものと、夫程にないものとがあるは既にお話し致したが、此澤山卵を産む性質、云換ふれば、「多産性」は遺傳するもので、多産の

鶏から得た種卵より孵化した雛は矢張多産性を持つので有る、だから我が空地養鶏家は此性質を利用して、自家飼養鶏の中から最も産卵力の強盛な雌鶏を選んで「種禽」となし、其卵を孵化して行と次第に多産性の鶏を多く得て、常に多数の採卵を見るに至るのだが、是には平素多くの雌に注意を払ひ、何れが多産鶏が否かを見定め、其最も優秀な産卵力を有する者の卵を蕃殖する様取計らふのである。

多産飼料の給與

總て鶏は其飼料に依て産卵を或程度までは増進するものだが、「多産飼料」と申すは鶏體の營養分となるべき成分を含有もので、即ち多くの飼料中でも「蛋白質」と「脂肪」とを含有した物は、多産飼料として與ふべき價値を有するが、今其數種を示すと、

- (イ)植物質多産飼料 小麦、燕麥、玉蜀黍、油粕、大豆、穀、麥糠、米糠、大豆粕、上等枇、蕎麥粉、玄米、青菜、軟草類等、
- (ロ)動物質多産飼料 肉粉、乾血、骨粉、鰵、泥鰌、田螺、蠶蛹、乾魚

小海老等

然し是等の飼料は其分量が過ると、「脂肪症」に罹るとか消化器を害するから、却つて産卵を阻害するので、適當の分量に調合するがよいのである。

廢物利用者は如何にして多産飼料を得るか

多産飼料の種類は以上の様だが、さて我が「廢物利用者」は如何したら多産飼料を得る事が出来るか、是に就いて私は自分が現に實行しつゝ有て、然も相當の成績を見る方法を説述て聊か諸君の参考に供せやうと思ふ。即ち植物質多産飼料としては主に收穫の際「上等批」と「大麥」とを準備し、「玉蜀黍」と「大豆」とは矢張收穫時に其幾分を前記二者の補助として貯藏し置き、是は其儘撒餌として或る磨碎いて粉になし、練餌に混合して與へるのだが、「米糠」、「麥糠」は自家で米麥を搗た時に必らず是を飼料として準備するのである。又動物質多産飼料は主に獲やすい「泥鰌」と「鮎」、「小海老」を燒物として或

は乾燥して準備し、尙「骨粉」の代用として給與するために、私は食膳に供へた種々な魚類の「骨」をよく洗滌して醬油氣を去り、夫を日光に乾した後細に搗碎いて貯へるが、一寸と注意して集ると是はなかく多く得れるから、實に好都合で有るのだ。尙私は田圃が近いから夏冬構はず「田螺」を拾集めて與へ、養蠶の時期には「蠶蛹」をも給するが、彼の「昆虫」を與へるために「蝗虫」を捕へて一度是れを熱湯で燻で極少量の食鹽を湯に入れた後、蝗虫を取出して乾燥し、夫を貯藏して冬季から春季に時々給與るが、是又實によい多産飼料となるのである。兎に角私は斯様にして居が決して失敗することはない、常に多數の産卵を見て頗る愉快であるから、廢物利用者は此點によく注意してもらひたい。

其他の多産法

其他鶏に澤山の卵を産ませ様とするには、可成く早朝に卵を産ませる工夫が肝要で、夫れには毎朝早く給餌をなすがよく、又鶏數に應じて「産卵箱」の數を増て置くか、模造卵を用ひて産卵を促がす

か鶏を恐怖せぬ様になすので有る。

(三) 鶏の更新法

更新の必要

總て鶏は其「年齢」を重ねるに従つて産卵力が次第に衰へ肉味も亦不美なるもので、斯様なものは最早生産力のない實利の目的には適せぬから、他の若鶏と交代する必要を生ずるが、是を鶏の「更新」と云ので有る。而て鶏は一般に其年齢によつて如何に産卵力が衰へるのかと云に、今或人の調査たのを見と、

初年目	二年目	三年目	四年目	五年目
一六〇	一三〇	一一〇	八〇	六〇

だから四年目以後の鶏は既に飼ふ見込が有ませんので、三歳以上の老鶏は早速交代する必要が有る。然るに地方の農家などでは、往々五六歳の

老鶏を平氣で飼ふが、是は實に「不經濟」極ること、實利を目的とする我空地養鶏者の決して採べきものではない。

更新の方法

鶏の更新を行ふは只老若相交代すると云ふ様な事ばかりではなく、實に「鶏種」の改良をなす重大な意義を有て居るから、其方面の考へを持って實行せなければならぬ。さて空地に十羽養鶏をなす人で自家の鶏が愈々三年目の春を迎へたら、四月上旬迄に二羽の「巢鶏」を準備して、一腹に拾五個宛の種卵を抱かせるので有るが、此時最も注意を要するは其種卵の選み方で、可成く優等の鶏を得るのだから、常に目を付けて置いた多産の雌の卵を採用やうになすので有る。然るに何の考慮なしに若鶏さへ作れば宜と心得、「種禽」や「種卵」に注意せぬと、非常に劣等な種類ばかり出來て、更新の目的は全然滅茶々々になるから實に大變な事である。

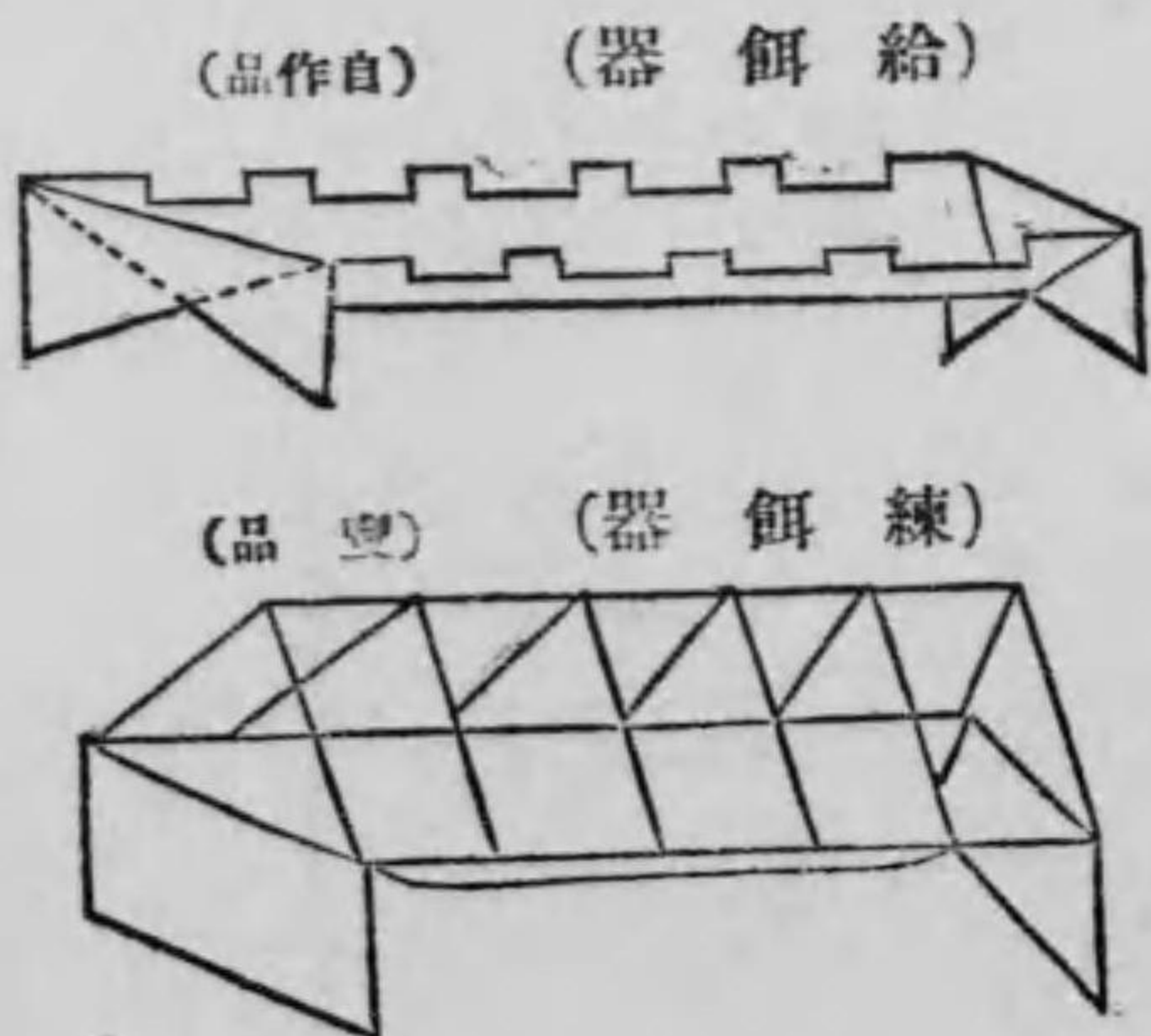
而て二十一日の後に孵化した雛は、いまだ雌雄の別や其良否が充分知れ難

いので、生後一箇月も飼養して置き、既に雌雄の別や其他が明瞭になつたらば、其中で最も「優秀」な雄二羽と雌十三四羽程も選抜き、夫以外は皆賣却するのである。夫から常に丁寧な管理の下に飼育して行くと、其年の秋十一月頃には成鶏となつて産卵をはじめめるから、以前より飼來つた老鶏はそこで賣却するか、何か處置して此若鶏と交代するので有る。更に若鶏は全部是を飼養して翌年の五月頃までよく注意し、其中の産卵が最も多い者から順次に選抜き、雌九羽雄一羽となせば決して間違はないので安全な更新法は斯くして全く實行されるので有る。

(四) 空地養鶏の種々な器具

空地養鶏の器具 養鶏の「器具」にはなかく種々の物が有つて、其價額も随分安くないのだが、廢物利用の空地養鶏では左程多くの器具や高價なものを使用する必要はなく、次の様な數種が有れば充分で夫も敢て購入

なくも自作で宜と思ふ。然し如何なのが有か参考のために賣品も一寸と紹介して見やう。



給餌器

總て鶏の性質として食餌を漁る時に必らず脚で地上を掻き廻すものだから、練餌や細微な食餌等は其儘土地に與へると無駄になるが多いので、撒餌の外は必らず一定の器物に入れて與ふべきで有る、而て此「給餌器」には近頃種々な形態の物を見るが、要するに次の様なものを購入するか自作する様になさい。

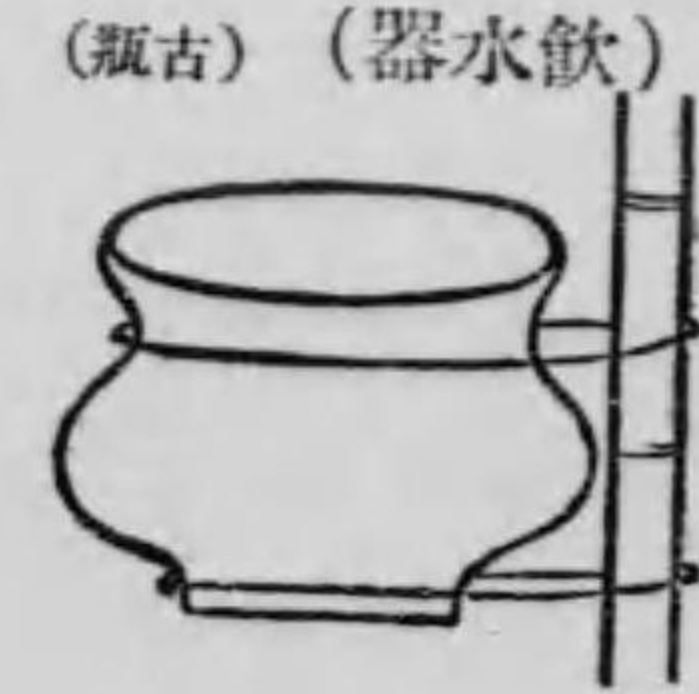
(イ) 鶏の器物内に入る能はざるもの。

(ロ) 轉倒の憂がなくして食餌は一定の場所に停り、鶏の啄食に極く便利なもの。

(ハ) 洗滌其他清潔に都合よく取扱も亦簡便なもの。

飲水器

飲水器には種々有が兎角鶏は飲水に脚を入れて汚し易いから、常に水が「不潔」にならぬ様な構造の物に限るので、圖の如く飲水が絶えず飲口の處へ停滞居る仕掛のが最も宜いと思ふ。然し空鐘か古瓶の様なものでも、夫を倒れぬ仕組にすれば、決し(器水飲) (瓶古) (器水飲) 差支はないので有る。



産卵箱

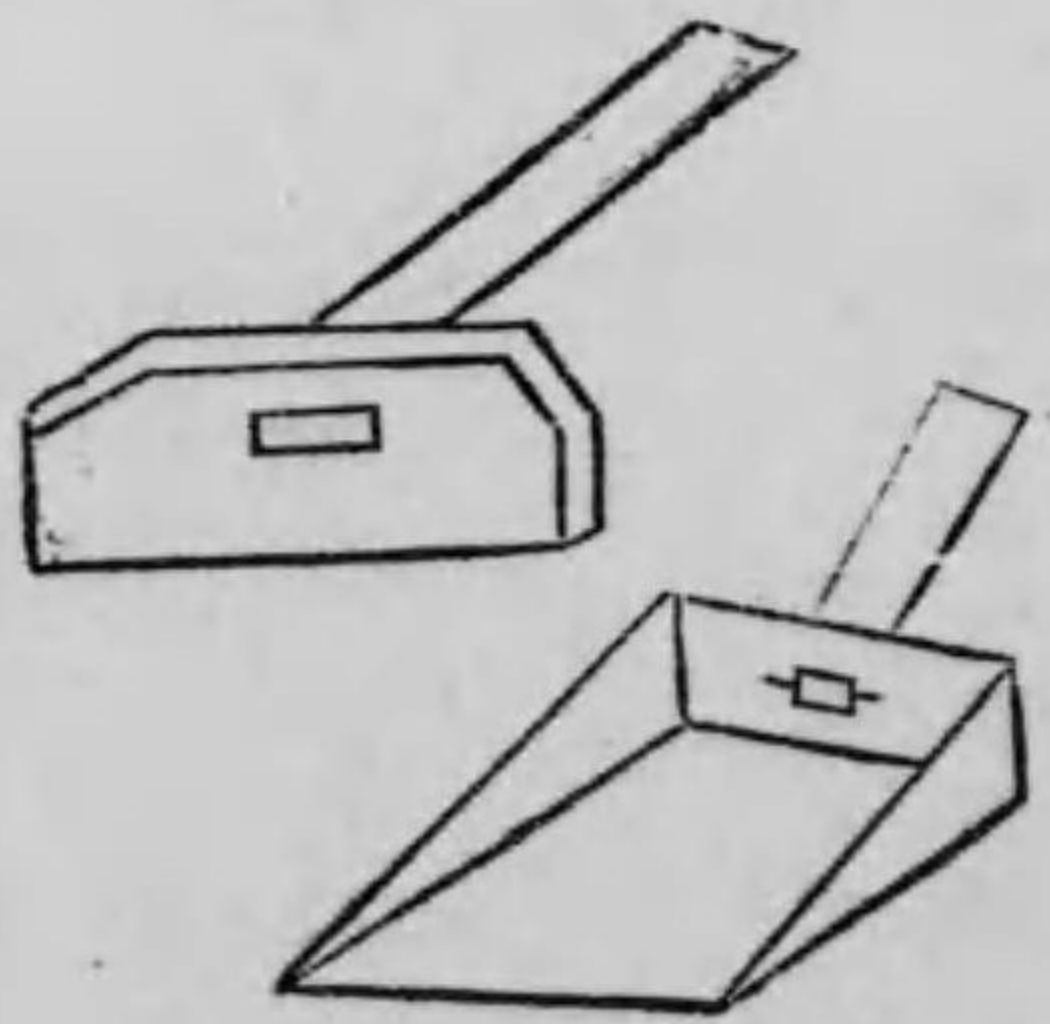
是には、「硝子製」、「木製」、「陶器製」等の物が有て、其中の陶器製のは軟かな藁を敷き中央を凹めると宜が、其箱の大いさは餘り廣からざる事、狭からざる事又餘り深からざること等の注意が最も肝要であると思ふ。

模造卵

製のが廣く用ひられるが、寒地では「木製」を使用がよいと思ふ。元來鶏は其産落した卵を皆取去られるを嫌ふから、此眞の鶏卵同様の形状をした模造卵を産卵箱内に入置くがよく、或時は産卵を促進ために有効であるのだ。

掃糞器

鶏糞の掃除は塵取、荒帚などで行よいが、舍内の糞除板(器糞掃)に堆積たものは、木篋(器糞掃)或は鐵製の萬能等で掬ひ取るが宜しく、私は*



圖の様な自製の、「糞搔」と「糞取」とを廢物板で作つて見るが是れもなかく輕便で空地養鶏には最も適當して居るのである。

(五) 鶏の病氣と其治療法

鶏の疾病

鶏の疾病には種々あるが何れも私共の目に觸れる様になる

時は、餘程の重症になつた場合で、恙うなるとなか／＼其治療も困難になつて斃死するものが多い、だから其「初期軽症」の際に發見して適當の手當を施さねばならぬが、元來鶏病は「運動」の不足、「鶏舎」の不完全及不潔若しくは「粗暴」な取扱ひ等が其主な原因をなすので、又鶏には「消化器病」が多い點から見ると、食餌に注意する必要が大にあるのだ。今素人が行つても比較的治療の出来るもの及び其他に就いて、數種の疾病をお話せやう。

(イ) 脚癱症

病狀及原因 膝節が定まらず脚が頻に動搖いて、「歩行」が出来ず、よし歩行するとても甚だしく跛をひき、遂には停立ことも困難になるから伏臥て食を攝る様になるのである。此病氣の原因は「過濕」か「寒氣」の障害を蒙るに有るので、又發育中に「石灰分」の不足した場合にも關係するのだ。

治療法 病鶏を「乾燥温暖」な箇處に移し、其飼料中に多量の「米糠」を加へて與るとよく、又石灰分を含んだもの即ち「貝殻」を給するので有るが、尙藥品としては、「林檎酸鐵」の少量を飲ませると宜いのであると思ふ。

(ロ) 鶏痘病

病狀及原因 鶏冠、顔面、眼瞼、脚等に小粒の「腫物」を生じ、日を経るに従て、次第に膨上り、黒色を帯びて遂には「失明」となるので有る。其原因は或種の「寄生微菌」の作用で、又「蚊」が病毒を傳播る媒介をなすと申されて居る。

治療法 病部に「黒砂糖」を塗付るか、又は「硫黄軟膏」を塗るもよいが或は「過鹽化鐵」を塗付しても有効で、一方蚊の攻撃をも豫防するので有る。

(ハ) ループ病

病状及原因

此病氣の鶏は始め眼の周圍は黄白色の「泡粒」様な腫物を生じ、眼瞼は腫れ上つて遂に全然視力を失ふに至るが一般に「體温」が上騰つて「沈鬱」の状態となり、或は佇立み或は呼吸困難の状を示して、末は鼻孔から粘液を生じて悪臭を放ち頻に「咳嗽」を發し、傳染性を帯びて來る非常に恐怖べきものである。是は寒暖の激變に原因する事多く、又不潔や過濕も大に關係を持つて居るのだ。

治療法

傳染性の恐るべきものであるから、先づ病鶏を「隔離」して傳染を防ぎ、咽喉や嘴の邊一面を五十倍の「硼酸水」で洗滌した後、鼻孔の邊へ「コールタール」を塗付るとよいが、重症の者は早く「屠殺」した方が極く安全である。

(三) 實扶的里

病状及原因

是も亦「ループ病」の様な恐怖べきものだが、口腔、鼻腔等の粘膚に白色の細かい點々を生じ、遂には氣管、肺、消化器及び全身

の皮膚にまで蔓延し、其原因は「ループ病」によく似たので、是は若鶏に多い病氣である。

治療法

其發病の初期に於ては患部を「過酸化水素」で洗滌し、内服薬としては「硫化石灰」を耳搔に一つ宛位、一日三回服用させると大いに奏効が有るのだ。

(ホ) コレラ病

病状及原因

「コレラ病」は非常に猛烈なもので朝は強健で有つた鶏が夕方には忽然と斃死して、「ヤレ〜」と云ふ間に五羽でも十羽でも失ふ大に恐怖べきもので有る。先づ一般の病徴は初め食欲がなく翼を下げ羽毛を逆立て、嘴から泡様の汁を出し、泥状又は水様の「下痢」を起すが、其原因は多く他よりの傳染にある。

治療法

本病の疑ひ有るものは屠殺して焼捨て、鶏舎、器具類は千倍の「昇汞水」か五十倍の「石灰酸水」又は百倍の「クレシン液」で丁寧に消毒

するので有るが、附近に此悪疫が流行ときは、血清注射をするが最も安全であるのだ。

(二) 下痢

病状及原因 軟くて白色に黄色の粘液を混じた糞をなし、常に「肛門」の羽毛を汚す様になるが、其原因は不良の食餌を與へた結果「腸加答兒」を起したので有る。

治療法 病鶏を温暖かな室に移して消化し易い食餌を與へ、「大黃末」、「白堊」、「蕃椒」を混じて丸薬を作り、朝夕一丸宛服用させると宜らしい。

(ト) 脂肪肥大症

病状及原因 過度の「脂肪質」となる病気で、お尻の部分が次第に膨脹み、何か卵でも支へて居るかの様に見えるが、此病鶏は産卵せぬばかりか、心臟閉塞のため「頓死」する事が有る。而して其原因は脂肪分の有る飼料が過ぎたので、又運動不足からも來ますが、是れは卵肉兼用種、殊

に「横班プリマスロツク」等に多い様だ。

治療法 常に「綠草」、「根菜類」を與へて運動を充分採らせ、清水の給與を怠らず、食餌は可成り脂肪分の少いのを與るがよい。

(チ) 軟卵症

病状及原因 病状は只卵殻の薄い卵を産むので、輸卵管の「炎症」或は石灰質の缺乏に原因するのであるが、「横班プリマスロツク」はよく此病氣に罹る様だ。

治療法 若し其原因が石灰質不足から來たならば、「貝殻類」を與へ、又其原因が他にある時は、「ヒマシ油」一匙及び微温湯を給するとよい。

(六) 害虫の驅除と悪癖の矯正

害虫の驅除 害虫は鶏の強敵で其驅除は決して油斷がならず、若し非常な發生をなした時は大害を及ぼすもので、雖は其發育を妨害せられ成

鶏は産卵を阻害されるばかりでなく、悲惨な状態を呈して遂に斃死するのである。而して害虫は其の発生が皆鶏舎運動場の不潔に原因するのであるから、常に清潔を保持して発生する事は少なく、若し発生したらば早速驅除を實行しなさい。私は鶏の害虫の中で其敷種を説明し、空地養鶏家の参考になすのだが、實際此害虫は恐るべきもので有るのである。

(イ) 疥 癬

加害状況と原因 疥癬は多く鶏の脚を侵すもので、脚部の鱗片が荒立ち、其内部が次第に蝕て腫起るが其病勢の烈しいのは悪臭を放つて見るさへ恐ろしい化膿するので有る、而して此原因は一種の寄生虫から來るので、鶏舎運動場の不潔も亦關係すること大なるが、此者は非常に傳染するから、空地養鶏家の誠に注意を要するものである。

驅除法 脚部に「石油」を塗付けてやるか又は「水銀軟膏」「硫黄軟膏」を塗付して縛帶するがよく、「桃の葉」を煎じ詰めた汁で洗ふも亦よろし

いので有る。

(ロ) ワクモ

加害状況及原因 是は夏季多く発生して晝は板の割目や壁の隙間等に隠れ、夜は出て鶏の血液を吸ひ非常に鶏體を衰弱させる甚だ微小な害虫だが、其発生した時は白い粉でも撒布たかと思はれる程澤山鶏舎の壁板や止木に見るので有る。而して其繁殖は極く迅速だから、其儘捨置くと殆ど手の着け様はないまでになり、夕方等鶏は鶏舎に入るを躊躇する程であるが、其原因は多く鶏舎の不潔、殊に鶏糞の不掃除から來るのである。

驅除法 「石油」を板の面や壁の隙間等に散布するとよく、又「クレシ」五十倍の液を注いで鶏舎の諸處を洗ふのだが、其原因は前申した様に不潔から來るので、常に清潔法を勵行し「熱湯」で鶏舎の壁や止木等を洗ふもよい。然し手浚い方法では駄目だから、必らず薬品等も強いのを

用ひ、手強い驅除をやらねば効力は少ないのである。

(ハ) 羽虱

加害状況及原因

羽虱の寄生を受けた鶏は全身の羽毛を逆立て頻に嘴や爪で體軀の各部を掻き、誠に不安の態度をして居ますが、初め此虫は鶏の血液を吸ひ、遂には軟毛までも喰ふから鶏は次第に衰弱へて斃死するので有る。而して此羽虱は鶏舎の不潔から發生するので、五月から十月迄の夏季及び冬季など砂浴の出来ぬ際に多い。

驅除法

「除虫菊粉」、「硫黄草」、「ナフタリン」等を羽毛に摺込み、一方鶏舎の清潔法を勵行するのである。

(三) 食卵癖

状況及原因

是は鶏が産落した卵を喰て仕舞ふ癖で、食餌に石灰質が缺乏した爲め、軟殻卵を産み其の破壊たのを食して味を覺へたのに原因するのだ。

矯正法

斯様な鶏には常に石灰質の食餌を與へ、又鶏卵の中味を抜取つたのへ何か鶏の嫌ふ物を詰込んで置くと、此癖の有る鶏は夫れを喰ふて其味に懲るから、食卵を斷念するのである。

(ホ) 食毛癖

状況及原因

食毛癖とは鶏が其羽毛を食する癖で、此原因は狭い所に多數を群居させた時、青菜の様な緑餌の給與が不足した場合にあるのだ。而して其痰癖が高進ると自分の羽毛でも、他鶏の羽毛でも關はずに抜取て喰ふ様になる。

矯正法

其矯正法は多量の青物類を與へ、又廣い所に運動させ、一箇處に多數を飼はぬ様になせばよいのであるが、一群の中に一羽か二羽斯様なのが表れた時には、必ずす夫のみを隔離する様になさい。

小山田の賤がはひりのうつ木垣散花ふみて庭鶏のなく (井上文雄)

七、空地養鶏生産物の處理法

(一) 生産物の處理を巧妙にせよ

鶏卵の處理

娛樂的の場合には、其生産物を巧妙に處理することが必要で、世の或者がめ様とするには、其生産物を巧妙に處理することが必要で、世の或者が云ふ様に養鶏は利益が薄いと、畢竟此生産物の處理を巧妙にする方法を知らぬからだらう。例へば鶏卵を賣るにも安値の時は可成く控へて一寸貯藏して置き、高値を見て手離すとか、又食用卵よりも一層利益がある種卵を賣ると収入も非常に増加から、鶏卵の販賣にも斯様な注意が必要である。私は或人が一羽の雌から卵で一箇年に十圓得たとか、拾五圓取つたとか云ふ事を聞て最初は非常に疑念を抱いたが、夫れに就て實際を調査て見たら、決して其法螺吹でない事が分つた。即ち鶏卵も普通の

値段に賣却では一顆二錢五厘位のものだから、一羽の雌が二百顆産卵すると其収益は五圓だが、是を種卵として一顆五錢にすると拾圓になり、八錢宛なら拾六圓、拾錢に賣却すれば貳拾圓の大利となるのだ。而て鶏卵も其處理を斯様にするとせないと、利益に大差あるは是で明かだから、總てを此秘法にて巧妙な處理を行つてもらいたい。

鶏の賣却巧拙

食用の目的で自家飼養鶏を賣るにも、魚類や肉類が市

場に拂底な場合にすれば、意外の利益を得て其儲も實に深いが、肉味に嗅氣を持つ時や、其他市場に是と競争する品物の有る際は利益が少いから、そんな時には賣却を中止するがよい、又雛も發育のよい時期に孵化して置ば餘り手數も要らずに成長するのであるが、斯様な好時期の雛は割合高値に賣るから、大利のあるもので、鶏を賣るにも亦其處理に巧拙のある事を辨へるがよく、是等は生産物處理法の一部を申たに過ぎぬのだから私は、次に種々の説明を試みて飼養者の参考にせやう。

(二) 鶏卵の販賣

高値の販賣

養鶏の主産物たる鶏卵は必ず高値の販賣を謀らねばならぬが、普通鶏卵は一顆二錢を平均價として計算するもので、勿論時期によつて高下があり、彼の三四月頃には總ての鶏が多數の産卵をなすから其價も一錢七八厘に下落し、又九月から十月頃の換羽期には多くの鶏が産卵を中止して品物が拂底なので、其價額も從て三錢或は夫以上に騰貴するのだ。今食用卵四季折々の相場に就て其大要をかいつまんで申せば百々に就き大約、

時期	價額	時期	價額	時期	價格
一月	一七、八	五月	一六、二	九月	二二、五
二月	一七、五	六月	一七、三	十月	二二、八

三月	一四、四	七月	一八、九	十一月	二二、二
四月	一五、一	八月	二一、二	十二月	一八、四

で有るから食用卵を販賣するには時期を選むのが、収益上に非常な關係を持つので、養鶏の利益を多く得るも得ないも、結局は斯様な點にあると思ふ。然らば如何して時期を待つかと申すに、是には鶏卵の貯藏が必ず要だから、私は其概畧をお話しせやう。

食用卵の貯藏法

鶏卵の貯藏法は一寸思ふと困難の様だが、是を實行て見るとなかく趣味の深いものである。而て其貯藏法は種々あるが、一二箇月位の貯藏には、卵を蜜柑箱の中に並べ、隙間には粗殻を充て床下の様な動搖のない冷る箇處に置くのである。然し四五月頃の鶏卵を秋季の高値な時期まで六七箇月の長い間貯藏するには、硫酸曹達即ち「水ガラス」と云ふもの三百三十匁を水一斗に溶した割合の液を土瓶に充滿

て、夫に件の卵を入れて目張をなし、床下や土藏の様な冷る處に置くので有が、其貯藏費は一顆一厘程を要し、然も全部良好な成績を表はすので實に有効な貯藏法である。尙最も効果ある貯藏法二三を示すと次の様で

(イ) 硫酸曹達液に一晝夜浸漬した後、穀殻中に貯藏すること。

(ロ) 飽和石灰水の中に浸漬すること。

(ハ) 浅い箱の中を鶏卵大に區割て、小さな新聞紙に包んだ卵を其中に入れて、密閉め置くこと。

是等は可成長い間の貯藏だが、只短時日の貯藏には、夏季は涼しい處に冬季は穀殻の中に埋めて、卵と卵とを接觸して置くは大禁物だから行らぬがよく、又鹽の中に入れるとか、木炭の碎片の上に並べるとか小豆の中に置もよい。

種卵の賣却

種卵は普通の食用卵よりも種卵として賣却するのが非常に高値だから、出來得る限りは高價に拂つて多額の利益を占るが、少數

養鶏即ち我が空地利用の場合には甚だ良策であると思ふ。殊に毎年春秋の孵化期になれば、諸方で雛を仕立てるから種卵の販路はなかく、廣いで、一寸運動すると百顆や二百顆は苦もなく賣捌るが、是は勿論母鶏の良否に依つて違ふも、素人賣なら『レグホーン』『ミノルカ』の種卵が一顆八錢より拾錢、『名古屋コーチン』は五六錢である。だから今七羽の空地養鶏で種卵一千二百顆を得たとしたならば、是を全部食用卵に賣つたなら、一顆平均二錢五厘として參拾圓だが、若し此中種卵百顆を販賣すれば拾錢宛にして、七圓五拾錢の收入増加となるので、參拾七圓五拾錢となるから如何しても種卵は可成多數賣却してもらひたいのだ。

(三) 鶏糞の處理は如何するか

鶏糞の効用

元來鶏糞は其中に尿を混じて居るので、其儘是を使用すると作物に有害だから、昔日は種々な説が行はれたものである。然し夫

れは全然の誤解で、鶏糞は是を糞溜の中に入れるか、又堆肥として一週間も腐熟せ、其青色となつた時に使用がよく、尙鶏糞は百貫目につき過磷酸石灰三貫目内外を混じて腐敗せるのが最も宜いのだ。而して鶏糞は其百分中に、

水分	窒素	磷酸	加里
五六、〇〇	三、八〇	二、八〇	一、〇七

の様な肥料の三要素を程よく含有から、何種の作物にも適當し、殊に葉莖の採取を目的とする桑、藍、蔬菜類には最も有効である。

鶏糞の價額

斯様に有効なものだから鶏糞は其相場も相當にはなつて行くが、夫れを記述るに先だち鶏は何程の脱糞をなすかをお話し致すと一羽の鶏は一箇年に風乾物で七貫三百匁位だから、十羽ならば七十三貫となる。夫れで其價格は何物も混らぬ時糞が十貫目一圓、土混が七拾錢

程ですから、平均七十錢には賣れるので、十羽の鶏からは毎年四圓五六拾錢を得れるが、是とても勿論鶏の種類によつて異なるのである。故に我々空地養鶏では此糞の採取も亦經濟上大いに注目すべきもので、飼料代や藥品代に向ける事が充分であるから、決して馬鹿にはならず、日々清潔に鶏舎や運動場をなす時に、よく鶏糞を採取して夫れを庭か何かの上に、載せて日光に干し、所謂「風乾物」として置けば何時にても賣却に應ずる事が出来て面白い。

(四) 廢鶏の賣却

廢鶏の處置

廢鶏と申すは三四歳の老齡となつて産卵力の減退たもの性來産卵数の僅少なもの又は不具か何かで生産の見込がないものを云ふのだ。故に斯様なものは、秋季の換羽期が來て斃死ぬ前に「屠鶏屋」へ賣却するがよく、長く飼養するのは誠に不經濟なものであると思ふ。

廢鶏の賣却

食用鶏の相場は四月から六月頃まで最も高く、七月から九月までは甚だ安いのだが、素人の廢鶏として手離すものは何れ劣等鶏だから、餘り高値にはならない。然し雄百匁八錢雌拾錢位にはなるので「レグホーン」ならば雄六百匁が四拾八錢、雌四百匁が四拾錢だから一雄九雌を交代の際全部賣却すると四圓八錢を得て、三年毎にするると毎年平均一圓三拾六錢となる。又「名古屋コーチン」雄九百匁は七拾二錢、雌七百匁は七拾錢で、一雄九雌は七圓二錢となるから、前の様になすと毎年二圓三拾四錢宛の収入を見る譯となつて、是れも亦捨がたいものである。

(五) 雛の販賣

賣却雛

毎年春秋の二季に賣却雛を仕立て販賣するとなかく、利益の多いものだから諸君にお勧めするが、先づ春季の三月から五月にかけて

二羽の母鶏を準備し、一羽に十五顆宛の種卵を與へると、少くも廿五六羽の雛を得るから、秋季にも同様にするると總て五十羽の賣却雛が出来、餘業としてはなかくの利得が見られる。然し空地養鶏で多數の雛を仕立てるのは困難だから、先づ二三十羽が頂上だらうと思ふが、私は空地进行して一雄九雌の「横斑ブリマスロック」を飼養し、暖地だから春季と秋季の二度を以て賣却雛を十五羽宛仕立て、相當の利益を得つゝ有るが實に愉快であるのた。

雛の價額

雛は一羽何程宛に賣却たらよいかと申すに、先づ一羽の巢鶏が抱卵期間を二十二日とし、毎日産卵すると見て二十二顆だが、一顆二錢として四十四錢、二羽分では八拾八錢の譯である。又十五個宛なら全部で種卵は三十個だから六拾錢だが、母鶏の食餌を一羽一日三厘として二羽では抱卵中に拾三錢二厘だから、合計では一圓六拾一錢二厘となる。故に雛を廿六羽得たならば、一羽平均六錢二厘宛に賣ればよい事に

なるが、實際は三週間も飼育して飼料代一圓六拾錢位要しても一羽二拾錢程にはなるから純益三圓六拾錢は手取りにされるのである。

私はかつて十羽養鶏をなし、毎年春秋に一羽の母鶏をして十六顆の抱卵を行らせ十四羽宛程の雛を二回で三十羽近く仕立て賣却見たが、

(イ)廿八羽を二週間飼育して賣却した利益。

一金參圓六拾四錢也 (一羽平均拾三錢)

一金九拾八錢也 (飼料代其他諸費)

一貳圓六拾六錢也 (差引純益金)

(ロ)三週間廿八羽を飼育して賣却した利益。

一金五圓六拾錢也 (一羽平均二拾錢)

一金一圓四拾七錢也 (飼料代其他諸費)

一金四圓拾三錢也 (差引純益金)

と云ふ具合であるから、雛は永く飼養するよりも可成く早く賣却するの

が得策で、我空地養鶏家は手數と面倒との點に於て、此賣雛は其羽數を定めて適宜になすのがよいと思ふ。

(六) 養鶏帳簿

日記帳の必要

自家の養鶏が毎日何個宛程全部にて産卵するかは、我空地養鶏家の是非心得べき事だから、煩はしい様ではあるが此日記帳は必ず準備すべきものである。而して其形式には種々有うが、私は次の様な至極簡單明瞭で、日々の産卵數も時々の上代も確實に知るものを用ゐて居るから、誠に愉快であるが、日記帳に就て種々研究して見た時には大いに便利で興味の深い有益な形式のものを工夫されて、實際上の効果はなかく、少くないだらう。

産卵日記帳 (白色レグホーン一雄九雌)

空地養鶏生産物の處理法
 算上に多大の便宜を與へて、實に愉快に堪へぬのである。
 一一八

産卵月帳 (白色レグホーン一雄九雌)		自家消費		卵賣却		全卵數		賣却卵代金	
年	月	費	卵數	卵數	却	全	卵數	賣	却卵代金
四	一	六〇	四〇	七四	一三七	一三四	一、八五〇		
三	二	二九	二九	一九〇	二一九	二一九	四、七五〇		
二	三	三八	三八	二二〇	二四八	二四八	四、八三〇		
一	四	二〇	二〇	二二五	二四五	二四五	五、一七五		
九	五	一五	一五	一八二	一九七	一九七	四、〇〇四		
八	六	二二	二二	一四〇	一六一	一六一	二、八〇〇		
七	七	一〇	一〇	九八	一〇八	一〇八	二、九六〇		
六	八	一一	一一	八三	九五	九五	二、二四一		
五	九								
四	九								

合	計	三〇三	一六〇八	一九一一	三九、〇〇三
一〇	八	八一	八九	二、二六八	
一一	二〇	一〇一	一一一	二、五二五	
一二	三〇	一〇七	一三七	二、六七五	
合計	三〇三	一六〇八	一九一一	三九、〇〇三	

會計簿 利益を目的とする事業に於ては、其收支決算の状況を明瞭に
 なすために會計簿なるもの、準備は誠に必要だが、我が空地養鶏の如く
 其飼料は廢物から是を仰ぎ、其他總てに購入費を要せぬのが主眼だから
 して、會計簿の用意は餘り肝要でない様に考へられるも、實際に當つて
 其純益なるもの、調査から見ると、なか／＼必要なものである。故に私
 が空地養鶏で實驗したもの、一部を掲示して、諸君の参考に供すると、左
 表の如くである。

(會計簿)

日	摘要	目		残高
		受入	支拂	
四 月				
		円十銭	円十銭	円十銭
1	前月分の残	857		
2	麥糠五升代		60	
3	豆腐粕一升代		10	
4	鯨 代		150	
5	食用卵五十九個代	1357		
9	除虫菊粉		50	
13	米糠三升代		30	
14	種卵二十顆賣代	1000		
14	食用卵二十八賣代	644		
15	豆腐粕一升代		10	
21	種卵十八顆賣代	900		
21	食用卵三十顆賣代	690		
25	乾魚買入代		135	
30	種卵十二個賣代	920		
30	食用卵三十二賣代	736		
30	貯 金 預		6000	
	合 計	7104	6535	569

恣なもので、空地養鶏の會計簿としては實際此位のもので充分間に合ふのであるが、養鶏家は種々な便利のものを工夫し出すのがよい。元來帳簿を準備して記入するのは、一寸面倒の様に考へられるが、是を實行で見るとなかく面白くもので、遂には夫れが習慣となるから、却つて深い興味を感じるに至るのである。だから空地養鶏家は相當の帳簿を備へて、養鶏の状況を明かにすると共に、利益の増進や種々の研究をなすが宜いと思ふ。

八、貯金自在の空地養鶏

(一) 貯金の必要

貯金の目的は二つ

私は空地養鶏の利益を貯金する様お勧めするに先ち何のために貯蓄するのか、何故金銭を積立ねばならぬのかをお話する

必要が有ると思ふ。さて「何故貯金するのか」と問れたら、其回答は十人が十人銘々異つて居るので、或人は不時の費途に供するためと云ひ、或者は將來有用の資に充當のだと申し、又或方は多額の金銭を積んで後榮を謀らんがためだと云れるだらうが、要するに各人皆貯金をなす目的は夫れ相應に有つて、千差萬別で有りませう。然し私は貯金の目的は歸する所二つであつて、其第一は「國家の爲の貯金」、第二は「一家の爲の貯金」であると思ふから、今より此二目的に就ての説明を畧説せんとするの

國家のための貯金

我國は御覽の通り戦争は非常に強いから列國も皆驚嘆て居る位、又農業にせよ工業にせよ、其他の製産業も日増に盛んになり行き、商業は洋の東西と取引を始めて大いに般賑を極めて来たから現今では世界の一等國となつて、列強と肩を並べる迄に至つたのは實に結構な事であるが、熟々考へて見ると肝腎な國家の實力には、まだなか

く乏しいので有る。御覽なさい我國は今の所國家の財政は餘程苦しいので、是は丁度大の借財家が常に美衣美食をして、其外觀を街て居ると同様で、表面ばかりは實に立派ではあるが、内實は眞に頭痛鉢巻の境遇だから、大いに寒心すべき事ではないか。又國民は随分稼いでも外國へ取去られるお金が頗る多く、よし歐洲大戰亂のために我國は多大の利益を得ても、夫れは只商工業に従事して居る者の懐中を温める收入で、一般國民を通じての財布はまだ誠に空々であるのだ。而して此大戰亂も止んで平和克復となつたらば、現今の様に無暗な利益も見れないだらうが更に調査て見ると歐米の諸國民に比較て、我國民には一般に行渡つて貯蓄が餘りないから、いや近來戰亂の影響で郵便貯金や其他の貯金額が非常に激増て、今や何億と云ふ巨額に達したが、是又一時的のもので且つ一般的でないから結局國民全部の貯金は、多額でないことになつて、夫れが國家に資本の乏しい理由となり、即ち貧乏國の證據を表はす様にな

るではないか。だから我國民は日々一生懸命に其職業を稼いで一家の經濟を立て、又適當の副業殊に私の主唱ところの空地養鶏を實行して其利益を國民銘々が、盛んに貯金して其財産を次第に増殖へ行けば國家の實力即ち富強を増大する一助となり、何年かの後には國民間に多額の貯金が出来て、日本は貧乏國だと西洋から輕蔑される憂も薄らぎ、世界に雄飛するを得るのであると思ふ。

尙國家に對して國民が貯金の必要なことは、一朝外國と戦亂を構へた時に最も明瞭なるを知るので、内債の應募も出来、軍資の献納も行はれるが、現今の歐洲大亂はよく此消息を傳へたものではないか。即ち實力言換ふれば金力に豊富な國家は、永久の戦争に堪へて終局の勝利を美事に得られるから、彼を思ひ是れを見るにつけても、私共日本國民たるものは益々銘々が、貯金をなすの必要を痛切に感じて止ぬのである。

一家の爲めの貯蓄

一國としての貯金は既に御承知になつたでせうか

ら、私は今より一家のための貯蓄をお話し致しませうが、此貯蓄をお勧めすると人に依つては大層夫れを輕蔑なされて、「何も今日自分の腕で稼いで收入を得て、日々自分の活計を立つて行けば、夫れで宜いではないか。今日は今日の風が吹き、明日は又明日の風が吹く、米の飯と御日様は毎日の着き物だ、自分で稼いで自分で使ふて仕舞ふに何のかまふ事があるものか。」等申されるが、是はまあ論外の言葉で、斯様な御仁は一家の爲めの貯金をお話して御賛成を求めめるのは、實に容易の事ではないから夫れに就ては一々申さぬのである。さて一家のために貯金が何故必要かと云ふことは、種々の理由が多くありませうが、元來人生の行路は常に無事平穩で行くとのみ限つたものではなく、時には恐怖べき病魔に襲はれる事も有らう、又或時は不測の天災地變に相遇することも有りました、其他所謂不時の事變と云ふものは、何時頭上に落ちて來るか神ならぬ人の身の知るよしもないから、常によく心掛けて貯金を實行して置かぬ時は

斯様な場合に大層狼狽するばかりか、非常に慘憺たる憂目を見ることがあるのだ。醫者よ薬よと呼ぶも金、汽車よ汽船よと云ふも金、手を出すも金、足を上げるも金で、此世は皆金の世の中となつて行くが、歐米では人間に貯蓄がなければ、人間たるの價値がないとまで申されて居るのである。成程是は左様で一才商業を始め様と思つても、其資本金を他から借りて行らねばならぬ様では、何時までたつても自分の頭の上る時は少しもないので有るが、又地方農家などでは日増に農業の改善を謀つて諸種の事業を行ひ、やれ耕地の整理とか肥料種苗の購入とか、農具の調達とか何とか夫れは、其費用を要することが、次第に増加のだから、其費途に供すべき貯金の必要を實に痛切に感じて來るのである。是等は皆不時の事や各自の職業に對して貯金の必要な理由の一端に過ぎないが更に子供の教育費や嫁入仕度の費用を要する等の臨時費が、益々必要を生じて來るから一家のための貯金は誠に必要なことで、尙是以外永遠の

謀計として多くの貯金で田畑、山林等の不動産を買込み、以て興産の途を企圖るも亦私の大いに希望するのである。然らば空地養鶏の利益を貯蓄すると、國家のため一家のための貯金が出来るか否やは、後段に於いて種々説明するが、茲には只貯金の必要を記述たまでに過ぎないのだ。

(二) 空地養鶏は貯金の好財源

空地養鶏の利益調 私に空地利用の養鶏で貯金が自在に出来る事を説明するに就ては、是非養鶏の利益を明確になす必要を認めるのだから、茲に少しく其養鶏利益調べを致さうと思ふ。元來養鶏利益の研究は興味深いものだが、私は是について種々な経験を積んだのだから、多くの場合を味はふて居る。實に空地養鶏の利益程人に依つて差畧のあるものはなく、或人は十羽から三十圓を得たと云ひ、或者は五十圓を得たと云ふ様なことで、鶏の種類、飼養法及び生産物の處理巧拙等によつて其多

寡を見るが、次の表に依つたら大要を畧々窺ふことが出来るで有らう。

	(食用卵) (賣却代)	(種卵賣) (却代金)	(雛賣) (却代)	(鶏糞賣) (却代金)	(總收入)
(甲)	三三、七五〇	〇	〇	四、八五三	三八、六〇三
(乙)	三〇、七五〇	一二、〇〇〇	〇	四、七九二	四七、五四二
(丙)	二九、九五〇	九、八〇〇	九、〇〇〇	四、六八五	五三、四三五

是は「黒色ミノルカ」十羽を空地に柵飼した三種の成績だが、甲の様に食用卵と鶏糞のみから収入を見たでは、割合に少額だが乙の如く何程か高値の種卵をも賣ると、其利益は稍高まり、更に丙の様な雛からの収益まで採れば、利得は實に多額となるのだ。依つて私の前申した様に同十羽の養鶏収入でも、其方法により斯く迄相違を生ずるので、此點は最もよく空地養鶏家の留意を願ひする所である。

羽數と種類の収益

鶏は其種類によつて生産力に多少が有るから、卵

用種と兼用種とは収益に差違を生ずるが、今五羽、七羽、十羽に對して丙の行つた様な養鶏法に於ける利益調べを次ぎに掲示するも無論是は私の實驗や知人の經驗に基づく極く正確なものである。

種 類	羽數	鶏卵賣却代	雛賣却代	鶏糞賣却代	總收入
黒色ミノルカ	五	一八、〇〇〇	五、〇〇〇	二、一九〇	二五、一九〇
名古屋コーチン	七	二六、〇〇〇	四、〇五〇	三、九二五	三三、九七五
白色レグホーン	一〇	四一、六二五	四、五〇〇	四、六五〇	五〇、七七五

空地養鶏の純益

今まで記述のは皆空地養鶏の収入で純益ではないが廢物利用の養鶏では飼料代を全く支拂ぬから、支出と云ふものは先づないとして、絶對に經費は支出せぬとは限らぬので、飼料の補充とか強壯劑の買入れ、或は貯箱、鶏舎等の消毒薬に費用を見るから、必らず何程か

の支拂を要するが、廢物利用を主とした私の空地養鶏一雄七雌につきての純益調べを次ぎに掲示ませう。

種	類	羽數	總收入	總支出	純益
褐色	レグホーン	八	四一、九七六	三、八九五	三八、〇八一

空地養鶏の利益は是で大概お分りだらうが、私は次ぎの項に於いて此利益が貯金の好財源となる事を、聊か説明せんとするので有る。

空地養鶏の利益は貯蓄の好い財源

塵も積れば山と成の譬の如く極僅かな金銭でも是を何年か引續いて積立ると、末は非常の大金となるもので、此道理は誰もよく心得ては居るが、なか／＼云ふは易く實行は困難なものである。否や困難いのではないかと其實行を容易にする方法を知らぬからで、何處の家庭でも貯金は相當出来る筈だが、是には何か其財源になるものが無いと、貯金の必要は知りつゝも自然怠り勝になつて、遂

に其實行は出来ぬ様になるのだ。故に貯金をなすものは何か其財源となるべき仕事を見つけてなす外はないから、私は實際研究の結果、貯金の最もよい財源となり、誰にも容易に出来て頗る愉快なものは空地養鶏の利益より外にないと思ふ。然らば如何な財源になるかと云に、今七羽の空地養鶏を行ると毎日平均四顆の鶏卵が得られるから、一顆の平均價を二錢と見て八錢の金が入るが、是を毎日引續いて積立ると一箇月の終には、二圓四拾錢の貯金を得るので、毎月夫れを實行で一箇年に至ると實に二拾八圓八拾錢程の金高となるのだ。又空地利用で十羽の養鶏を行ると誰が飼つても、一箇年に純益が三拾圓はあるから、夫れを貯金して五年に至ると百六拾圓位となり、尙十年の永きを蓄積する時は、四百圓餘の大金となるが、更に十五年二十年の長日月では非常な巨額となる而して尙少額の貯金を考案して、毎日只の一箇宛の卵代を積むと一ケ年には七圓三拾錢程の貯金が出来て、婦人や子供方が實行するには頗る適

當したすのである。斯様に空地養鶏の利益は容易に積立ることが出来るから、本業の利益で暮す日々経済から無理算段をして餘裕を見付る慘憺たる苦心も入らずに、誰でも樂に出来るので、何と非常に愉快な良法ではないか、彼の貯金が出来ない、困難だ、などと泣言を云ふのは、熟考で見ると誠に馬鹿らしい事で、此空地養鶏さへ行ば日を連ね月を重ね、年を経るにつれて次第に多くの貯金が出来、面白おかしく實行して居る間に大きな蓄財家となるのである。要するに空地養鶏を行ば日々何程かの鶏卵が得られ、夫は相應の價額を持って絶ず金銭が手に入から従つて貯金の財源は生じ誰にも何の苦痛なく極めて愉快に蓄財されて行れるのである。されば將來富貴を望み、貧賤を厭ひ、衣食を足し禮節を守り恒心を持ち、獨立自營して他人に尊重せられ人間たるの本分を行はんとする者、或は未來に於て多年の貯金を利用し、以て大になす有んとする人々には、此貯金の好

財源は實に空地養鶏より外ないと確信して私は少しも疑はない。

(二) 千圓の貯金は空地養鶏で愉快に出来る

空地養鶏と千圓の大金

軒下や庭先や垣根の傍の極僅少な空地の養鶏利益を積で千圓の金が樂に出来る。私が申したら、「何と大法螺を吹く、あんな鶏の利益で何千圓の金が積めるものか、此誇大妄想狂奴！」とお叱責を蒙るだらうが、いや千圓の金は容易に出来る、千圓の大金は苦もなく積る。何千圓が大金か。そりや巨萬を渴望む者には何の大金でもなくほんの僅少なものが、地方農家や三文商の人々には實に大金であるのだ。然らば如何したら千圓の貯金が出来ると云ふに、算盤を採て次の積立表の示す所を見ろがよく、是は空地利用十羽養鶏の利益を毎年三十圓宛貯財した結果である。

表立積金貯圓千

年利五分				年利八分			
利率	年次	貯金額	年次	貯金額	利率	年次	貯金額
年	五年目	一七四、〇五七	年	五年目	年	五年目	一七九、二五九
分	十年目	三九六、二〇〇	分	十年目	分	十年目	四一九、一四九
分	十五年目	六七九、七二五	分	十五年目	分	十五年目	七四〇、一七六
分	二十年目	一〇四一、五七八	分	二十年目	分	二十年目	一〇七三、五六八
分	廿五年目	一九〇、〇七七	分	廿五年目	分	廿五年目	二〇一、四六八
分	三十年目	四六九、三六四	分	三十年目	分	三十年目	五二五、九三五
分	三十五年目	八七九、七二八	分	三十五年目	分	三十五年目	八〇九、二四九
分	四十年目	一〇九三、五〇七	分	四十年目	分	四十年目	一〇四八、四九二
分	四十五年目		分	四十五年目	分	四十五年目	
分	五十年目		分	五十年目	分	五十年目	
分	五十五年目		分	五十五年目	分	五十五年目	
分	六十年目		分	六十年目	分	六十年目	
分	六十五年目		分	六十五年目	分	六十五年目	
分	七十年目		分	七十年目	分	七十年目	
分	七十五年目		分	七十五年目	分	七十五年目	
分	八十年目		分	八十年目	分	八十年目	
分	八十五年目		分	八十五年目	分	八十五年目	
分	九十年目		分	九十年目	分	九十年目	
分	九十五年目		分	九十五年目	分	九十五年目	
分	一〇〇年目		分	一〇〇年目	分	一〇〇年目	

憊うすれば千圓の貯金は容易に出来るではないか。十年二十年の月日は今から想ふと實に永い様なもの、光陰は矢の如しで、日々職業に勤勞し

て居る身には、春去り秋來ることは誠に迅速いものだから、年々歳々養鶏利益の貯金を樂で居る間に忽ち過ぎて、千圓の大金は苦もなく手取にされるのである。故に「金は當底出來ぬものだ、貧乏は我身に着きものだ」など表面は大に誦めた様なもの、内心頗る悲觀に堪へぬ人々は、明日から早々空地養鶏の實行に手を染めて、千圓貯金の準備に取掛るがよい。

千圓貯金の効果

然て若し本年廿歳の青年が此千圓貯金を始めたならば年利五分の安利でも、四十一歳の時、卅歳の壯者なら五十一歳の時、又四十歳の人ならば六十一歳の還歴祝の際には目的が達せられるから、何等かの資金に利用することが出來てよく、六十一歳の人が是を養老のため預金して置き、毎月十圓宛引出て消費しても十箇年間は有るので、左程他人の厄介にもならず悠々として老後の閑日月を安樂に送ることが出来るのだ。夫で四十歳の時までに積り得たものが、此千圓を何處か確實な

銀行に年利五分の預金にして利殖すると、五十一歳の時には一千六百二十八圓八十九錢五厘、六十一歳の折には二千六百五十三圓二十九錢八厘となるから、田畑や山林の如き不動産を買入て是を子孫に授けることも、會社か銀行の株主になることも出来るではないか。實に千圓貯金は大切なものだが、朝から晩まで星から星へと汗水流して「セッセ」と勞働しても一錢の貯金さへ出来ないものは、宜しく明日から早速此空地養鶏の利益貯金を實行して、十五年若くは廿年の後に、千圓の大金をうまくと掴むが最も賢い方法であるのを、私は確信し且つお勧めするのである。

(四) 空地養鶏羽數と種々な貯金額

僅か五羽養鶏から五百圓の貯金

私の知つて居る或小さな飲食店の女將は裏庭の日當のよい場所二坪程を利用して、僅か一雄四雌の「褐色レグホーン」を飼養すること、實に十餘年であつたが、彼は其生産物から

得る利益を小供の小使錢や其他に消費して、尙餘分をば根氣よくも必らずせつせと貯金したので、遂に積り積つて二百圓の金を得たのである。又私の友人が「白色レグホーン」を五羽飼養して貯金に關する事を實驗したが、夫に依と毎年の純益は貳拾圓程であつて、彼は其金額を八年間引續いて積立から二百圓五拾二錢を得たとの事であつた、僅か五羽許の鶏ならば、何處の家庭でも夫れを飼ふ位の空地と、飼料になるべき殘飯や落米等の様な廢物があるから、私は多數を飼へぬ人々には娛樂を兼ねた此位の羽數を大にお勧めする。

一卵貯金の實驗者が有た

私は或人が一卵貯金を實行して居るのを見たが、一卵貯金とは其名の示す如く、毎日一卵宛の額を貯金する事で、此人は研究のため納屋の軒下に一坪許の空地を利用して、一雄二雌の鶏を飼ひ毎日産だ卵を一個宛賣拂て夫を必らず貯金して居るのであつた。其人の談話によると二羽の雌が一箇年に約四百程の産卵をなすが、一類

は平均二錢三厘には賣るので、毎日其價を自家にある竹筒の貯はへ置き、毎月の終に其全部を郵便貯金になすが一箇年には、八圓三十九錢五厘位の金が積れて實行に着手した以來もう五年程になるから、四拾八圓餘の貯金が出来たと云ことである。是は誠に興味の深いもので、私は或意味から大に夫を賛成するが、三羽と云非常な少数は如何な人にも容易に實行される方法であるから、婦人、子供の行には最も適當した事であると思ふ。

八羽養鶏の利益か山林一町歩

「塵も積れば山となる」とか、「積小爲大」など云ふ譬へはよく聞ことだが、私は次の様な實話を耳にして居る。夫は隣村の農者であるが、或時村の農談會へ來た畜産の技手から養鶏の有利なこと聞されたのが動機で、それから少数養鶏をはじめ、僅か一雄七雌を親切に飼養し其利益を健氣にも貯金して努力した結果、拾五年の永い後に五百圓餘の貯財が出来た。然るに時恰かも千載一遇の御即位大禮

に當たので、其人は此慶典紀念として貯金全部を投じて山林一町歩を買込み、植林事業を行ひ、是を子孫に永く傳へる事になしたとの話である。實に斯様な事實は稀に見る美談で、私は熟々養鶏利益の貯金が如何に偉大なるかを驚嘆せずには居れないのである。

各羽數の貯金調

空地養鶏の羽數に對する貯金に就ては其數例を既に記述したが、私は更に参考のため五羽、七羽、十羽の養鶏利益貯金表を掲示て見様と思ふ。

養鶏利益貯金表 (年利六分)

年次	五羽養鶏の利益 毎年十二圓宛預	七羽養鶏の利益 毎年十七圓宛預	十羽養鶏の利益 毎年二十四圓宛預
五年目	七一、九一四	一〇一、五八〇	一四三、四〇八
十年目	一六七、六六四	二三七、五一七	三三五、三一九
十五年目	二九六、〇七〇	四一九、四三二	五九二、一四一

日	月	年	目
四六七、九一三	六六二、八七六	九三五、八二五	
六九七、八七七	九八八、六一五	一三九五、七五三	
一〇〇五、六二〇	一四二四、六二八	二〇一一、二四〇	

實に僅かな羽数の鶏から得る利益と思つても、是を何十年と云ふ長日月積立ると非常な多額となるもので、田地も山林も買へる、相當の住家も建築れる、養老金も出来るから、なか／＼空地養鶏の利益貯金は輕蔑したものではない。

(五) 農村青年と空地養鶏利益の貯金

青年會基本金の蓄積

總て何種の團體にても何か企業をなさうとするには、必らず先立つものは經費であるが、此經費を得るには、何處かに其財源を求めねばならぬので、是には必ず或額の基本金を蓄積で其利子

で活動するが最も安全であると思ふ。殊に農村青年會等の企業經費は此基本金からの利子を得る必要があるので、各地青年團體は常に基本金積立に心掛ねばならぬが、夫を得る方法は種々有うも、私は養鶏利益の貯金から積立る様に希望して止まない。

今茲に百人から成る一青年團があるとして、是等の青年が申合せて空地に各十羽の養鶏を行ひ、其利益金の中を毎月一圓宛或規約の下に積立ると、一ヶ月には百圓一ケ年には千二百圓の基本金が出来、斯様にして五年繼續たら六千圓、十年ならば一萬圓以上の大金となるのだ。故に此基本金から生ずる利子で充分青年會事業の費用は得れるので、私は農村青年團に斯様な方法を是非お勧めするから、宜しく諸君の反省を希望して止まない。

青年個人の貯金必要

農村青年諸君は一個人として貯金の必要なるは今更云ふまでもなく、廿年卅年の貯金を實行し、其多額の金錢を以て田

畑、山林等を購買し、將來の計を立てるも青年の義務だが、左様に非常な遠慮ところの前途を思はずとも、自己が獨立する年齢即ち廿五歳か卅歳位の邊を目當に青年時代から貯金するも亦頗る肝要なことである。今茲に拾五歳の青年があつて、僅かな空地を屋敷の中に見付けて一雄七雌の養鶏を始めると、其純益は一箇年に廿五圓あるから、夫を毎年貯金して十箇年即ち二十六歳の時になれば三百圓程の金が出来、三十歳の春ならば六百餘圓の蓄財となるので、農村事業の經費に満る事は出来る。又十羽の養鶏ならば純益が三十圓程あるから、拾七歳の青年が其貯金を實行して十箇年間努力すると四百圓以上の貯金が出来、更に十箇年も實行すれば一千圓を越る程の大金となるのだ。私は是を見ても空地養鶏貯金の偉大なるを感せずには居れぬから、將來農村の振興者、社會の建設者たる農村青年諸君に向つて、大に其實行を切望するのである。

(六) 空地養鶏と婦人子供の貯金

婦人と空地養鶏の貯金

總て婦人は多く自ら収入を得るものではない

から、一時に多額の金圓を預るとか澤山の貯金を積立るとか云ふ事は出来ないが、一家の主婦たるものは一箇月の生活費から何程かの剰餘金を作つて貯金するとか、何か手内職をして其収入を積立る外はないのである。故に世の御婦人方は此貯金をなかく困難なものとして考へて居られる様だが、私は茲に或最も手軽で非常に愉快な貯金良法として、空地養鶏をお勧めする。

世の中には随分多忙な家政を整理なされる方も有うが、又なかく閑暇な御婦人方もあるので、軍人、官吏、教員或は其他勤め人の夫人をはじめ、職工等の妻君には空地養鶏が最も適當して居ると思ふから、斯様な人々は軒下か庭隅に僅かな空地を見付けて、手數と經費入すの養鶏を行つて

其利益を貯金するのがよい。而て是に依ば生活費から剩餘を搾出す苦痛も、疲勞の多い婦人方には適當せぬ内職もなす必要はなく、只朝晩や晝の極く僅かな手数と、臺所の殘物とを利用するに止る位で、其收入は割合に多い、面白おかし貯金は知らずくに出來るので有るから、私はくれぐれも是を希望するのである。

お子供方と貯金

お子供方は金銭に對する自覺心が、まだないから其日々々の小遣錢をのみ希望で、夫を漫然費消すばかりだが、其結果は自然金遣ひの荒いものとなつて、行末は實に恐怖るべき方向に進様になる故に子供の時から金錢を無益に消費はぬ習慣を作り、常に貯金の精神を養成がよいけれども、夫には努力から得收入を見るのが最も良策であらう。されば私は其方法として空地養鶏を實行する様又お勧めするのだが三羽でも五羽でも宜から僅かな土地に鶏を飼つて、其産卵の賣上代を毎日何程宛か積行き、是を學校で取扱ふ郵便貯金になすか、直接郵便局に

依頼すると、一日一箇代二錢三厘を積でも、一箇月に六十錢餘りで一箇年には八圓餘となるから、三年間も引續いて行ば廿五六圓の金錢が出來て、誠に愉快なものである。

(七) 學資貯金と嫁入貯金の空地養鶏

空地養鶏と學資貯金

極僅少な養鶏利益で子女の學資や嫁入仕度の金を得られると私が申したら、「何に？」と、不審を抱かれる方も有うが、よく熟考へ御覽なさい、如何に拙劣な飼方でも十羽の鶏からは毎年純益三十圓は得るので、是を絶ず積立ると年利五分の安利でも、

五年目

七年目

十年目

十二年目

一七四、〇五七

二五六、四七二

三九六、二〇四

五〇一、三八九

となるから、今年男子が出生した時直ぐに此貯金を實行すると、其兒が尋常小學校を卒業する十三歳の春には、斯様な大金となつて、中等教育

を受けさせる位の事は容易に出来るではないか。だから私は世の父兄方に、此有益な趣味の深い空地養鶏利益の貯金を切に勧誘し且つ反省を求めるのである。

嫁入仕度と空地養鶏

社會が進歩するにつれて總てが向上から、交際費や衣住費の様なもの、食費等よりも却つて多額を要する様になり、嫁入仕度の如きは殊に逐年諸地方で巨額を費す様になるから、時勢上其費用を多くするも致方ないが、是に對する父兄の支出は又なか／＼苦いもので、「娘三人有ば身代倒る」とはよくも云たものである。然るに私は此結婚費を得るために地方の家庭へ、空地養鶏をお勧めするが、夫は前項と同様に積金するので、今年女子の出産があつたら、養鶏利益三十圓宛毎年積むと其女が満二十歳の春を迎へて結婚する時には、九百六十一圓九十七錢九厘の大金が得られて、田舎の小百姓に取つては、實に立派な嫁入仕度が出来るとだ。故に桐を植るよりも養鶏を行るのがよく、如

何しても空地養鶏の利益貯金は、頗る有効で又いと楽しいものではないか。

(八) 養鶏利益で面白い一種の貯金法

養鶏利益で債券の購入

空地養鶏の利益は是を現金として積立るのみならず、彼の勸業債券を買込で其増金を樂むもよいと思ふ。即ち十羽養鶏の一箇年の利益三十五圓あれば、拾圓の勸業債券三枚と五圓の貯蓄債券一枚が買て、運よくば千圓若くは五百圓の金が一時に採る非常な愉快がある。よし例へ取れぬとした處が相當の利子は附くから、決して損失はないから安全なもので、私は是を一種の貯金法として、お勧めするのだ。

保険加入と空地養鶏利益

毎年得る空地養鶏の利益を以て生命保険の料金となし、夫れに加入して何年かの後に五百圓とか千五百圓とかの大

金を得もよく、若左様な大金でなくも、彼の郵便局で取扱ふ簡易生命保険に加入し、毎月極く僅かの貳拾錢とか五拾錢位を拂込で、百圓とか貳百圓の金を將來に得るも亦、良法と思ふから一種の貯金法として、注意までに記して見たのだ。

空地養鶏の利益で株主其他

五年とか十年間空地養鶏を實行て得た貯金二百圓とか五百圓を更に増殖するために何處か確實な銀行の株主となるか有利事業を經營して収益の多い會社の株を持つも亦配當金を得るか實に樂みなもので、殊に有利會社の株主になれば、其會社の利益増減によつて多寡の配當金を見れ、或時は年八割とか一割とか、更に昨今の様な戦亂の影響を蒙つて、非常な好景氣に際會は、三割も四割もいや夫以上の巨額な配當を得て、其収入は實に計り知れぬ程であるから、私は斯様な貯金法も大にお勧めする。又其他無盡の掛金として數年の後に何十圓何百圓の金を採るもよいが、此空地養鶏の利益は、各人皆適當な方

法で夫相應の貯金になす事を一家のため國家のため、私は頗る切望して止まないのだ。

副業利殖
空地應用

實地養鶏法

(終)

大正十二年一月貳拾日印刷
大正十二年一月參拾日發行

副業利殖空地應用
實地養鷄法
定價四十五錢

【不許復製】

著

者

白

松

鷄

庵

發

行者

三

輪

逸

次

郎

東京市淺草區南元町二十四番地

東京市深川區萬年町二丁目四番地

印

刷者

石

渡

長

之

助

東京市淺草區藏前通リ

大賣捌所

い
ろ

は

書

房

電話淺草二〇六七番
振替東京一九〇四〇番

石上錄之助著
最新算術自修書

石上錄之助著
最新珠算自修書

初等英語學會編
新式英語獨修自在

岸 芹 風 編 書
草書日用語辭典

書翰文攻究會編
實用書翰文

東京雄辨同志俱樂部編
五分間卓上式辭と演說

樋口 紋 太 著
新らしき詩の作り方

武田鷺塘澤田騎士共編
俳句自由自在

定價金六十五錢
送料金六錢

定價金六十五錢
送料金六錢

定價金六十五錢
送料金六錢

定價金七十錢
送料金四錢

定價金九十五錢
送料金六錢

定價金五十五錢
送料金四錢

定價金八十錢
送料金六錢

定價金九十錢
送料金八錢

287
396

終

